

令和4年度 第1回

社会教育委員の会議

○日 時 令和4年8月2日（火）
午前9時30分～

○会 場 人材かがやきセンター研修室
（中央生涯学習センター5F）

宇都宮市教育委員会

会 議 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 職員紹介

5 副委員長選出

6 議 事

【協議事項】

- ・「(仮称)第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」策定の方向性について 資料1

(1) 「第3次宇都宮市地域教育推進計画前期計画」の評価について

別紙1

(2) 「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の評価について

別紙2

(3) 「(仮称)第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」策定に向けた課題について

別紙3

7 そ の 他

- ・令和4年度社会教育委員の会議の予定について

資料2

8 閉 会

宇都宮市社会教育委員名簿

任期：令和3年7月1日～令和5年6月30日

区分	No.	氏名	役職名等	備考
学校教育 関係者	1	いざわ まさゆき 伊澤 雅幸	宇都宮南高等学校長（栃木県高等学校長会宇都宮支部）	
	2	なかむら たかゆき 中村 孝之	豊郷中学校長（宇都宮市中学校長会）	
	3	ひらの のりこ 平野 紀子	東小学校長（宇都宮市小学校長会）	
	4	いまい まきのり 今井 政範	宇都宮地区幼稚園連合会顧問（宇都宮地区幼稚園連合会）	
社会教育 関係者	5	ながよし しゅん 永吉 準	公益社団法人宇都宮青年会議所理事長	
	6	こばやし すみえ 小林 純枝	宇都宮市スポーツ協会副会長	
	7	まつもと こうげん 松本 弘元	宇都宮市文化協会常任理事	
	8	いしづか まさる 石塚 勝	宇都宮市子ども会連合会会長	
	9	ふくだ ほるひさ 福田 治久	宇都宮市PTA連合会会長	
	10	おおもり みきお 大森 幹夫	宇都宮市地域まちづくり協議会副会長	
	11	こばやし つよし 小林 剛	宇都宮市青少年指導員会会長	
	12	ますぶち ようこ 増渕 洋子	上戸祭小学校放課後子ども教室コーディネーター	
家庭教育 関係者	13	こいけ みさこ 小池 操子	家庭教育支援活動者	
	14	すずき ちあき 鈴木 千明	家庭教育支援活動者	
学識 経験者	15	かわた たかし 河田 隆	宇都宮共和大学教授	委員長
	16	ささき かずたか 佐々木 一隆	宇都宮大学教授	
	17	まるやま じゅんいち 丸山 純一	文星芸術大学教授	
	18	ますぶち ゆきお 増渕 幸男	上智大学名誉教授	
	19	なるしま たかひろ 成島 隆裕	市議会議員	副委員長
	20	ごうま やすひさ 郷間 康久	市議会議員	

「(仮称) 第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」策定の方向性について

◎ 趣 旨

「第3次宇都宮市地域教育推進計画」(平成30年～令和9年)の前期の評価について報告するとともに、「(仮称) 第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」(以下、後期計画という)の方向性について協議するもの

1 計画の位置づけ

本計画は、「第6次宇都宮市総合計画基本計画」の分野別計画であるとともに、本市における「人づくり」の指針である「うつのみや人づくりビジョン(宮っこ未来ビジョン)」の基本的考え方や方向性を受けた、社会教育行政において最も基本となる計画である。

2 計画期間

本計画は2018(平成30)年から2027(令和9)年までの10ヵ年計画。ただし、2022(令和4)年に中間見直しを行う。

3 後期計画の策定体制

参考1のとおり

4 評価区分

(1)「事業」の評価

各指標の目標値に対する達成率に応じ、以下のとおりの評価とする。

目標値の達成率	評 価
100%以上	A 順調
70%～100%未満	B 概ね順調
70%未満	C やや遅れ
70%未満の原因が新型コロナの影響	(コロナ)

(2)「施策」の評価

施策については、第6次宇都宮市総合計画の令和4年度施策評価の考え方に準じ、各事業の評価A～Cを点数化。その合計点数から施策の評価を行う。

また、進捗が(コロナ)の事業については、評価対象外とする。

※1 A～Cの基本点数配分: A(25点), B(20点), C(15点)。

※2 施策の評価の点数は100点を満点とする。

※3 ※1 の基本点数配分は、4事業の場合(4事業すべてAで100点満点となる)のため、施策内の事業数に応じて100点満点となるよう割合を調整する。

【施策の点数の計算方法】

(例) 6事業で構成される施策の場合

- ・ 6事業の評価・・・A評価⇒2, B評価⇒3, (コロナ)⇒1
- ・ 評価対象・・・5事業 (全てA評価の場合125点満点)
- ・ 合計点数・・・A評価 (25点) × 2 = 50点
B評価 (20点) × 3 = 60点
合計110点
- ・ 施策の点数・・・110点 ÷ 125点 = 0.88 **88点**

施策の合計点数	評価
90点以上	順調
75点以上90点未満	概ね順調
75点未満	やや遅れ

(3) 「基本指標」の評価

基本指標については、「ア 事業評価」と同様、総合計画の施策評価の考え方に準じ、目標値に対する達成率に応じてA～Cで評価。各基本目標に基本指標は1つしかないため、A評価(25点⇒100点), B評価(20点⇒80点), C評価(15点⇒60点)とする。

(4) 「基本目標」の評価

基本目標については、「各施策」、「基本指標」の点数の平均で評価する。

※ 点数に応じた評価の考え方は、「イ 施策評価」と同様。

5 計画の評価#

(1) 「第3次宇都宮市地域教育推進計画前期計画」の評価

- ・ 基本目標ごとの評価について

⇒ **別紙1**

(2) 「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の評価#

「第3次地域教育推進計画」の下位計画である「第2次読書活動推進計画」(平成30年～令和4年)についても、今年度、計画改定の時期であることから併せて評価を行った。

- ・ 基本目標ごとの評価について

⇒ **別紙2**

6 後期計画策定の方向性について

これまで取り組んできた両計画の評価から見えてきた課題と併せ、社会情勢の変化や国・県の動向等を踏まえ、後期計画の課題を**別紙3**のとおりまとめ、以下のとおり方向性のポイントを整理した。

(1) 課題の総括

① 感染予防対策と地域教育推進の両立

学習、交流、活動など、生涯学習のあらゆる場面で新型コロナウイルスの影響を受けている中、今後、さらなる感染拡大や災害の発生など、様々な外的要因が生じる場合においても、持続的に地域教育を推進していけるよう、ICT等の新しい技術の活用や、実施方法の見直しなどにより、学習や活動等の機会を継続して提供していくことが必要。

② つながりづくり、多様な主体との連携・協働

学習を通じた人と人、人と団体等のつながりづくりとともに、様々な団体や企業、学校、行政等が連携・協働し、それぞれの強みを生かしながら地域における多様な教育活動に取り組んでいくことが必要

③ 社会的包摂の実現に向けた学習や社会を支える人材育成

身体の状態、経済状況、家庭環境など、様々な困難を抱えている人も、誰も取り残すことなく、学ぶことができる学習機会の創出が必要。また、社会の変化に柔軟に対応し、これからの社会や地域を支えていく、活躍していくことができる子どもの育ちや人材育成を強化していくことが必要

④ 生涯学習推進に向けた基盤の整備

地域における学習や活動の拠点である図書館等の社会教育施設において、誰もが利用しやすい環境整備や利用したいと思うサービス等の充実を図るとともに、市民の学習や活動における困りごと、悩みごとを解決へと導く相談機能・情報提供機能等の強化に取り組んでいくことが必要

(2) 「地域教育推進計画」と「読書活動推進計画」の一体的な推進

「読書活動推進計画」における読書機会の提供や読書活動の推進、情報提供機能、レファレンスサービス等は、市民の主体的な学習活動の促進とともに、市民の学習や活動における様々な課題や悩みを解決へと導くなど、生涯学習を支える基盤となるものである。

また、計画のこれまでの評価や社会情勢の変化等から導き出した今後の課題は、「地域教育推進計画」における課題と重複しており、課題解決に向けては、両計画の取組を一体的かつ効果的に進めることが重要である。

そのため、「読書活動推進計画」については、上位計画である「(仮称)第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」を策定する段階で統合する。

(3) 事業見直しの考え方

ア 事業の継続

社会の変化などの影響を受けづらく、普遍的に実施していくことが必要な事業については継続としていく。

イ ニーズに合わせた事業の変更

社会情勢の変化や国・県の動向などを受け、事業の主旨や取り組む内容などに変化が生じる事業については、必要に応じて修正・変更をしていく。

ウ 事業の統合・拡充

事業の目的や内容の関連性等から、効果的・効率的な推進が見込める事業については事業の統合を検討する。また、仕組みづくりができたことで次の段階に進む事業や目標を達成している事業、社会情勢の変化等から新たな役割が求められる事業については、事業の拡充を検討する。

エ 事業の追加，施策の追加・変更

社会情勢の変化等から新たに求められ、既存事業の見直しで対応できないものについては、新たに事業を位置づける。

※ 各施策，基本目標についても，各事業の見直しを基に，必要に応じて追加・変更等を行っていく。

目標	施策	事業の評価	施策の評価	基本目標の評価																																																																								
基本目標1	(1) 主体的な学習活動への支援	※ 重点事業以外の評価は参考2を参照	施策1	基本指標の評価																																																																								
一人ひとりが自己の実現や生活の向上、地域社会の発展に向けて主体的に学習活動に取り組んでいます	(2) 社会性を高める学習の推進	<p>【重点事業①】生涯学習センター等における学習機会の充実 <指標>生涯学習センター等の利用者数（千人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標（基準値）</td> <td>1,790</td> <td>1,790</td> <td>1,792</td> <td>1,795</td> <td>1,797</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1,788</td> <td>1,761</td> <td>1,754</td> <td>1,099</td> <td>1,237</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>(ｺｯ)</td> <td>(ｺｯ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒令和元年度末からコロナの感染が拡大し、各施設の利用制限や講座の中止等せざるを得なかったが、講師との調整による開催時期の変更や、Zoom、YouTubeの活用をしながら講座を開催してきたところであり、生涯学習センターの貸館や図書館の利用についても、換気や消毒など、感染症対策の徹底、周知を行い、利用者数は感染拡大前に戻りつつある。</p>	年度	H29	H30	R元	R2	R3	目標（基準値）	1,790	1,790	1,792	1,795	1,797	実績	1,788	1,761	1,754	1,099	1,237	評価	—	B	B	(ｺｯ)	(ｺｯ)	<p>事業評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R3 施策評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="3">85点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(ｺｯ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>概ね順調</td> </tr> </tbody> </table> <p>【評価】 生涯学習センターにおいて、健康づくりや生きがいづくりなど様々な講座を、ZoomなどICTを活用しながら開催。市民大学においても、日程や回数等の調整を柔軟に行い、講座を開催してきたことで、各講座の開催数や受講者数は増加傾向である。また、学習情報、講師情報等の提供や、レファレンスサービスによる課題解決の支援等は高い満足度を得るなど、概ね順調となった。</p> <p>【課題】 コロナ禍においても、幅広く市民の学習活動を活性化できるよう、ICT等の新しい技術をより積極的に活用し、様々な実施方法での講座開催や、学習環境の充実、学習を支える相談・支援等の強化を図り、市民の学習意欲を高めていくことが必要である。</p>	年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価	A	6	6	2	2	85点	B	5	5	5	6	C	1	1	0	0	(ｺｯ)	—	—	5	4	概ね順調	<p>基本指標 学習活動をしている市民の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標（基準値）</td> <td>(42.4%)</td> <td>43.2%</td> <td>43.2%</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>38.4%</td> <td>23.9%</td> <td></td> <td>やや遅れ</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>C</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値をR3目標値として記載。 ※実績値はR3実施の市民意識調査結果(5年に一度実施)</p> <p>【評価】 令和2年度以降、コロナの感染拡大に伴い、市においてはICTを活用するなど実施方法を工夫しながら各事業を進めてきたが、講座等の減少が否めない中、民間においても学習機会の提供が難しく、市民自身も外出すら自粛しなくてはならない社会状況が続いたことで、市民が思うように学習活動をできなかったことから、大幅な減少につながったと考えられる。</p>	年度	H28	R3	R4	評価	目標（基準値）	(42.4%)	43.2%	43.2%	60点	実績	38.4%	23.9%		やや遅れ	評価	—	C		
年度	H29	H30	R元	R2	R3																																																																							
目標（基準値）	1,790	1,790	1,792	1,795	1,797																																																																							
実績	1,788	1,761	1,754	1,099	1,237																																																																							
評価	—	B	B	(ｺｯ)	(ｺｯ)																																																																							
年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価																																																																							
A	6	6	2	2	85点																																																																							
B	5	5	5	6																																																																								
C	1	1	0	0																																																																								
(ｺｯ)	—	—	5	4	概ね順調																																																																							
年度	H28	R3	R4	評価																																																																								
目標（基準値）	(42.4%)	43.2%	43.2%	60点																																																																								
実績	38.4%	23.9%		やや遅れ																																																																								
評価	—	C																																																																										
(3) 今日的課題に対応した取組の推進		<p>【重点事業②】ICTに対応した学習の推進 <指標>ICTを活用し提供した講座数（講座）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標（基準値）</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>C</td> <td>C</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒ZoomやYouTubeを積極的に活用し、子育て講座やものづくり講座の提供に取り組んだことで、令和2年度、令和3年度は目標の講座数を達成した。</p>	年度	H29	H30	R元	R2	R3	目標（基準値）	1	3	5	7	実績	—	0	1	10	14	評価	—	C	C	A	A	<p>施策2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R3 施策評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>準備中1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(ｺｯ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>評価除外</td> </tr> </tbody> </table> <p>【評価】 身近な生活課題等をテーマとした講座や、参加交流型学習、大学生が運営に関わる講座などに取り組んでおり、コロナの感染拡大前には及ばないが、各講座の実施回数や受講者数は着実に増やしつつある。しかし、コロナの影響による講座、体験活動の中止など、事業評価は全て(ｺｯ)であるため評価除外とした。</p> <p>【課題】 参加者同士が交流し、つながりをつくることのできる学習機会や、他者との連携や協働できる力を高める学習機会、子どもたちの豊かな心を育む様々な体験活動ができる機会の充実に向けて、実施方法の工夫や安心して参加できる環境整備が必要である。</p>	年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価	A	1	3	0	0	—	B	3	2	0	0	C	準備中1	0	0	0	(ｺｯ)	—	—	5	5	評価除外	<p>【総合評価】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施策1</th> <th>施策2</th> <th>施策3</th> <th>基本指標</th> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85点</td> <td>—</td> <td>93点</td> <td>60点</td> <td>79点</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>概ね順調</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和元年度までは多くの事業を順調に実施してきたが、コロナの感染拡大は各事業の実施に多大な支障を来し、市民の活動割合も低下した。 そのような中であっても、Zoom等の活用など、実施方法等の工夫をし、趣味・教養的な講座や社会的課題を捉えた講座、参加交流型講座など、市民の主体的な学習を後押しする多様な学習機会の提供に取り組み、総合評価は概ね順調となった。</p> <p>【課題】 ICT等の新しい技術をより様々な形で積極的に活用しながら、学習環境の充実を図るとともに、人との交流・つながりをつくる機会、様々な体験活動ができる機会等、市民の学習意欲を喚起・向上させる多様な学習機会を提供していく必要がある。 また、関係各課と連携し、各分野で課題解決に取り組むことができる人材の育成に注力していくとともに、市民の主体的な学習や活動を支え、導く、相談・情報提供機能の充実を図っていくことが必要である。</p>	施策1	施策2	施策3	基本指標	総合評価	85点	—	93点	60点	79点					概ね順調						
年度	H29	H30	R元	R2	R3																																																																							
目標（基準値）	1	3	5	7																																																																								
実績	—	0	1	10	14																																																																							
評価	—	C	C	A	A																																																																							
年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価																																																																							
A	1	3	0	0	—																																																																							
B	3	2	0	0																																																																								
C	準備中1	0	0	0																																																																								
(ｺｯ)	—	—	5	5	評価除外																																																																							
施策1	施策2	施策3	基本指標	総合評価																																																																								
85点	—	93点	60点	79点																																																																								
				概ね順調																																																																								
		<p>【重点事業③】生活課題解決型講座の充実 <指標>生活課題解決型講座受講者数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標（基準値）</td> <td>2,700</td> <td>2,725</td> <td>2,750</td> <td>2,775</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2,676</td> <td>2,677</td> <td>2,532</td> <td>1,000</td> <td>1,055</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>(ｺｯ)</td> <td>(ｺｯ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒コロナの感染拡大が続く中、感染防止対策の徹底や、開催時期を変更するなどして取り組んだが、時期の変更などが難しく中止せざるを得ない講座もあり、令和2年度以降の受講者数は目標値の半数以下となった。</p>	年度	H29	H30	R元	R2	R3	目標（基準値）	2,700	2,725	2,750	2,775	実績	2,676	2,677	2,532	1,000	1,055	評価	—	B	B	(ｺｯ)	(ｺｯ)	<p>施策3</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R3 施策評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="3">93点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>準備中1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(ｺｯ)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <p>【評価】 情報教育、超高齢社会、人権など、様々な分野の課題を取り上げた講座や、困難を抱える人へのアウトリーチの講座等に取り組んだ。また、様々な関係課や大学、NPO、企業等と連携し、その分野のノウハウなどを生かした学習機会を創出し、順調となった。</p> <p>【課題】 社会的な課題が更に多様化・複雑化していく中、環境、福祉、経済など、より広い分野で必要とされる学習についても捉え、課題解決に向けて、様々な関係課、関係機関等と連携した取組の充実が必要である。</p>	年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価	A	7	7	2	2	93点	B	0	1	0	1	C	準備中1	0	0	0	(ｺｯ)	—	—	6	5	順調																						
年度	H29	H30	R元	R2	R3																																																																							
目標（基準値）	2,700	2,725	2,750	2,775																																																																								
実績	2,676	2,677	2,532	1,000	1,055																																																																							
評価	—	B	B	(ｺｯ)	(ｺｯ)																																																																							
年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価																																																																							
A	7	7	2	2	93点																																																																							
B	0	1	0	1																																																																								
C	準備中1	0	0	0																																																																								
(ｺｯ)	—	—	6	5	順調																																																																							
		<p>【重点事業④】様々な困難を有する人の学習活動への支援 <指標>様々な困難を有する人への学習提供数（回）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標（基準値）</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>(ｺｯ)</td> <td>(ｺｯ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒令和2年度以降は、コロナの感染拡大により、通常の講座も中止となる中、様々な困難を有する人への学習機会の提供は難しかったが、読書機会の少ない子どもたちの集まる場所に出向き、読書関係の講座を開催するなど、感染状況を踏まえながら、機会を捉えて困難を有する人への学習を提供している。</p>	年度	H29	H30	R元	R2	R3	目標（基準値）	4	5	6	8	実績	3	6	7	2	3	評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)																																																			
年度	H29	H30	R元	R2	R3																																																																							
目標（基準値）	4	5	6	8																																																																								
実績	3	6	7	2	3																																																																							
評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)																																																																							

目標

基本目標2
地域・学校・家庭が相互に連携・協力し、地域全体で学び合い育ちあう教育活動に取り組んでいます

施策

(4) 家庭教育支援の充実
(5) 地域と学校の連携・協働による教育活動の充実
(6) 子どもも大人もともに学ぶ育つ教育活動の充実

重点事業の状況

【重点事業⑤】家庭教育支援講座の充実
 <指標> 家庭教育支援に係る講座等の実施回数（回）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		47	47	57	57
実績	43	45	43	12	22
評価	—	B	B	(コナ)	(コナ)

⇒参加者の満足度の高い参加型学習を実施するなどしながら、令和元年度まではほぼ同数の講座を開催してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、感染状況を注視しながら講座を開催しており、講座によってはZoomを活用することで自宅にいながら受講できるようにするなど、実施方法を工夫しながら、講座の実施回数を少しずつ増やしている。

【重点事業⑥】魅力ある学校づくり地域協議会活動の充実
 <指標> 地域協議会による学校教育支援活動数（回）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		930	935	940	945
実績	929	912	1,044	564	623
評価	—	B	A	(コナ)	(コナ)

⇒令和元年度までは順調に実施回数を伸ばしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降は、各協議会の活動は大幅に縮小した。しかし、地域と学校が連携し、実施手法の工夫などをしながら、地域の教育力を生かした協議会活動に取り組んできており、感染拡大以降、再度、活動数を増やしつつある。#

【重点事業⑦】宮っ子ステーション事業の充実
 <指標> 宮っ子ステーション実施校区数（校区）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		53	57	61	64
実績	52	53	54	53	54
評価	—	A	B	B	B

⇒新型コロナウイルスの影響により放課後子ども教室を休止する校区があったため、令和2年度の実施校区数は一時減少したものの、着実に各校での立ち上げを進めており、令和3年度は新たに2校で放課後子ども教室を立ち上げたことで、宮っ子ステーションの実施校区数を増やした。また、子どもの家については、令和3年度、55校に指定管理者制度を導入し、効果的な運営に努めるとともに、地域が運営する12校についても市がきめ細かな支援を行うなど、適切な運営を図った。

施策の評価

施策4 (4事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	2	1	0	0	60点
B	1	2	1	0	
C	準備中1	1	1	1	
(コナ)	—	—	2	3	やや遅れ

【評価】
Zoomなど実施方法を工夫した講座や、保育園や学校などで保護者が集まる機会を捉えた親学出前講座など、家庭教育への意識の高揚等に取り組んできたが、コロナの影響が大きかった。また、訪問型家庭教育支援はC評価ではあるが、これまで家庭訪問の実績がなかった中で、令和3年度には1件の家庭訪問につながるなど、積極的な事業の周知がようやく実績へと結びついた。

【課題】
各家庭の家庭教育への意識の高揚に向けて、講座の開催や個別具体的な家庭教育支援の実施手法の検討、相談機能の充実、地域で活動する活動者の育成等、きめ細かな家庭教育支援に取り組んでいくことが必要である。

施策5 (3事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	2	2	1	0	80点
B	1	1	0	1	
C	0	0	0	0	
(コナ)	—	—	2	2	概ね順調

【評価】
「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動や地域未来塾に取り組み、活動数や実施校区数を感染拡大前に戻しつつあるが、コロナの影響は依然として大きかった。また、地域の人に、学校の授業で活躍してもらう「街の先生」についても感染拡大以降は減少傾向だが、B評価のため施策評価は概ね順調となった。

【課題】
地域の人たちの教育力を、学校教育への支援や子どもたちの学習支援に生かし、地域全体で子どもの成長を支える教育活動を進めるため、引き続き、地域内での連携や活動の活性化に向けた支援の充実が必要である。

施策6 (6事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	4	1	0	0	80点
B	1	4	1	1	
C	準備中1	準備中1	準備中1	0	
(コナ)	—	—	4	5	概ね順調

【評価】
放課後子ども教室の立ち上げに取り組んだ「宮っ子ステーション事業」がB評価であり、施策評価は概ね順調となった。また、「地域未来塾」や「子育てサロン」など、子どもと大人が交流しながらともに学び育つ活動に取り組む、事業評価は(コナ)だが、登録者数等は増加傾向にある。

【課題】
地域の大人と子どもが交流し、健やかに学び育つ活動の充実や、環境づくりに取り組むとともに、地域全体で子どもたちを育てる意識を地域に浸透させていくことが必要である。

基本目標の評価

《基本指標》
 地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数（千人）

年度	H28	H30	R元	R2	R3	R4	評価
目標（基準値）		132	140	148	157	165	一点
実績	123	132	125	60	61		評価
評価	—	A	B	(コナ)	(コナ)		対象外

【評価】
放課後子ども教室や地域未来塾の参加児童・生徒数について、令和元年度までは積極的な事業実施により概ね順調であった。しかし、令和元年度の2月頃からコロナの感染が急速に拡大し、学校が休校する等、それぞれの活動自体を休止せざるを得ない状況も続いたことから、活動に参加した児童・生徒数はコロナの感染拡大前の半数以下となった。

【総合評価】

施策4	施策5	施策6	基本指標	総合評価
60点	80点	80点	—	73点
				やや遅れ

令和元年度までは、地域・学校・家庭の連携、交流を図りながら、ほとんどの事業を概ね順調に進めていた。しかし、構成している事業の多くが、人との交流・連携や、活動を行うものであることから、コロナの感染拡大以降、活動の制限等により、多くの事業が思うように実施できず、各施策で評価できる事業はわずかであったが、その中で基本目標の総合評価はやや遅れとなった。

【課題】
幅広い対象に向けた家庭教育支援とともに、様々な事情を抱える家庭へのきめ細かな支援に向けて、ICT等を活用した学習機会の充実や個別具体的に相談等ができる仕組みの充実を一層図っていく必要がある。また、地域全体で子どもたちの育ちを支えていくことができるよう、地域と学校の円滑な連携や、ウィズコロナにおける地域の大人たちの人づくりに対する意識の高揚を図り、地域の様々な教育活動の活性化に取り組んでいくことが必要である。

目標

基本目標3

多様な主体や人がつながりを深め、様々な場面で学んだ成果を生かして活動しています

施策

(7) 多様な主体による学習機会の提供

(8) 学習活動を支える人材の育成

(9) 郷土愛や地域理解を促進する取組の推進

重点事業の状況

【重点事業⑧】NPO・大学・企業等と連携した学習の推進
 <指標>企業等と連携した講座開催数（講座）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		32	34	36	38
実績	30	44	47	39	46
評価	—	A	A	A	A

⇒講座の企画や実施にあたり、地域団体や大学、企業等の様々な組織と積極的に連携を図ってきており、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う講座の中止等により実績値も若干減少したが、令和3年度には再度連携した講座数を増やし、目標値を上回る実績を継続している。

【重点事業⑨】家庭教育支援活動者の育成
 <指標>家庭教育支援活動者数（人）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		25	25	30	40
実績	—	27	29	28	25
評価	—	A	A	B	(ｺｺ)

⇒定期的に研修会を開催し、家庭教育支援活動者の育成に取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、新規の登録者がいないことや、既存の登録者も都合により活動を休止する人などがいることにより、活動者数が減少してきている。#

【重点事業⑩】地域学講座の充実
 <指標>地域学講座の受講者数（人）

年度	H29	H30	R元	R2	R3
目標（基準値）		720	740	760	780
実績	700	825	775	790	848
評価	—	A	A	A	A

⇒生涯学習センターで行う子どもから大人までを対象とした様々な講座において、地域の名所や文化等を知る、見る、体験する機会などを創出し、改めて自分の住む地域に目を向け、興味を持ち、考えるきっかけづくりに積極的に取り組んでいることで受講者数は増加傾向にあり、単年度目標値を上回る実績値を維持している。

施策の評価

施策7 (8事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	4	4	1	1	85点
B	3	4	3	3	
C	1	0	0	0	
(ｺｺ)	—	—	4	4	概ね順調

【評価】
 大学や企業、まちづくりセンター、みやシニア活動センター等、それぞれの専門性やノウハウを生かした学習機会を提供してきた。また、人材バンクの講師登録者の講座開催を支援する取組を立ち上げ、コロナの感染拡大以降はYouTubeの活用も試みているなど、施策全体としては概ね順調となった。

【課題】
 環境分野、福祉分野など、他にも各分野で専門性を持って学習機会を提供する多様な主体があることから、それらの学習情報を捉えていくとともに、市民が学んだ成果を活動に生かす仕組みの充実が必要。

施策8 (5事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	3	3	2	2	93点
B	2	2	2	1	
C	0	0	0	0	
(ｺｺ)	—	—	1	2	順調

【評価】
 コロナの感染拡大により活動機会の減少等はあるが、「家庭教育支援活動者」や「子どもの体験活動指導者」、「講座企画・運営ボランティアスタッフ」など、市民の主体的な学習活動を様々な形で支える多様な人材育成に取り組んでおり、順調となった。

【課題】
 新たな人材の確保に向け、活動できる場や機会の充実、活動方法の工夫等を検討し、市民の活動意欲を引き出しながら、人材の育成を進めていくことが必要。

施策9 (7事業)

年度	H30	R元	R2	R3	R3 施策評価
A	3	2	2	2	90点
B	3	4	1	2	
C	準備中1	1	0	0	
(ｺｺ)	—	—	4	3	順調

【評価】
 地域団体等と連携を図りながら地域学講座、宇都宮の歴史文化、伝統文化に関する講座等を実施しており、図書館では地域資料の提供やレファレンスを行うことで市民の地域理解に関する学習を支えている。また、成人式の地域交流事業や、外国人住民へ地域理解を促す取組など、様々な人に地域の一員としての自覚を促す事業に取り組む、順調となった。

【課題】
 地域に愛着や誇りを持ち、地域で活躍していく人材の育成に向けて、地域団体等と積極的な連携や、市民の学習や活動を支える相談・情報提供等の機能の強化を図りながら、郷土愛や地域理解を促進する取組を進めていくことが必要。

基本目標の評価

<<基本指標>>学習活動をしている市民の割合

年度	H28	R3	R4	評価
目標（基準値）		(42.4%)	43.2%	60点
実績	38.4%	23.9%		やや遅れ
評価	—	C		

※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値をR3目標値として記載。
 ※実績値はR3実施の市民意識調査結果(5年一度実施)

【評価】
 令和2年度以降、コロナの感染拡大に伴い、市においてはICTを活用するなど実施方法を工夫しながら各事業を進めてきたが、講座等の減少が否めない中、民間においても学習機会の提供が難しく、市民自身も外出すら自粛しなくてはならない社会状況が続いたことで、市民が思うように学習活動をできなかったことから、大幅な減少につながったと考えられる。

【総合評価】

施策7	施策8	施策9	基本指標	総合評価
85点	93点	90点	60点	82点
				概ね順調

令和元年度までは、概ね順調に事業を進めていたが、コロナの感染拡大以降は、大人数を集める事業の中止や規模の縮小をせざるを得ず、活動自粛による市民の活動機会の減少などが生じた。しかし、そのような中においても、多様な主体との連携を図り、人材育成や郷土愛等を育む講座に積極的に取り組み、総合評価は概ね順調となった。

【課題】
 多様な主体と連携し、分野に応じた様々な学習機会の提供とともに、学んだ人が団体の活動に参加する、地域活動へ参加するなど、学習から活動へとつなげる仕組みの充実が必要である。
 また、地域において他者の学習や活動を支える人材の育成や、郷土愛を持ち、地域課題の解決に主体的に取り組む人材の育成などに継続して取り組む必要があり、これらの取組を効果的に進めるため、多様な学習機会の提供や、求めに応じて相談・情報提供を行う機能の強化を図っていく必要がある。

目標

施策の評価

基本目標の評価

基本目標Ⅰ

市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます

基本目標Ⅱ

すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます

施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進（4事業）

【評価】夜間の図書館を活用した「よるとしよ」事業や、新成人向けブックリストを成人式で案内する啓発事業など、コロナの影響がある中でも可能な読書機会の提供に取り組んだ。
【課題】講座等の中止やオンライン化により図書館外での図書利用の機会が減ったことから、新たな読書機会提供方法の検討が必要である。また、図書館を利用していない市民への周知啓発について、紙媒体だけでなくICT技術を活用するなど、各世代のニーズを捉えた実施手法の検討が必要である。

施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実（2事業）

【重点事業①】アウトリーチサービスの推進
【評価】アウトリーチサービスはコロナの影響で規模を縮小せざるを得なかったが、障がい者サービスは資料の充実や特別支援学校支援、資料作成に係る人材育成に着実に取り組んだ。
【課題】読書バリアフリー法の趣旨を踏まえ、従来のサービスの充実や関係機関との連携強化のほか、読書機会の少ない市民に向けた新たな取組を検討し、障がいの有無にかかわらず、誰もが読書に親しめる環境づくりを更に進める必要がある。

【重点事業①】アウトリーチサービスの推進

＜指標＞実施回数（回）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	3	6	9	12
実績	—	5	5	2	3
評価	—	A	B	(ｺｯ)	(ｺｯ)

施策3 ICT技術を活用したサービスの充実（2事業）

【重点事業②】ICT技術を活用した読書活動の推進
【評価】図書館ホームページアクセス数は増加した。また、貴重な資料のデジタル化を着実に進め、ホームページで公開した。
【課題】コロナの影響もあり、非来館・非接触型サービスの充実がますます重要となっている中で、今後は、電子書籍の導入などICT技術の利活用による新たな取組を進めていく必要がある。

施策4 読書環境の整備（2事業）

【評価】関係機関と連携した企画展示など、利用者の興味を引く企画の実施により読書活動の推進を図った。また、図書館施設の改修、整備を計画的に実施した。
【課題】将来にわたり安定した図書館サービスを提供するため、図書館施設の計画的な改修等を進めるとともに、様々な市民の状況に応じた読書環境を維持、支援する工夫や仕組みづくりを検討する必要がある。

【重点事業②】ICT技術を活用した読書活動の推進

＜指標＞図書館ホームページアクセス数（件）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	920,000	940,000	960,000	980,000
実績	900,000	731,570	716,581	728,666	733,806
評価	—	B	B	B	B

施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実（4事業）

【重点事業③】「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施
【評価】コロナの影響はあるが、「うつのみやこども賞」などの事業を着実に実施するとともに、勉強会を開催し子どもの読書を支えるボランティアの育成支援に取り組んだ。
【課題】子どもの読書を支えるボランティアの高齢化や担い手不足、活動場所の減少に対応する必要がある。また、様々な理由で読書が困難な子どもへの支援を強化する必要がある。

施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進（3事業）

【重点事業④】はじめてえほん事業の実施
【評価】規模を縮小しながら乳幼児向けのおはなし会を実施するとともに、ボランティアによるおすすめ本紹介など代替事業にも取り組み、家庭での読書環境づくりを支援した。
【課題】子育て世代への読み聞かせ講座や図書館以外の場所でのおはなし会実施などにより、乳幼児期の家庭での読書環境づくりを支援する取組の充実を図る必要がある。

【重点事業③】「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施

＜指標＞事業実施回数（回）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	3	5	7	8
実績	2	5	5	0	3
評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)

【重点事業④】はじめてえほん事業の実施

＜指標＞講座実施回数（回）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	3	6	9	12
実績	—	3	6	2	8
評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)

施策7 小中学校との連携・支援の充実（3事業）

【重点事業⑤】授業に役立つ資料・情報提供の充実
【評価】コロナやGIGAスクールの影響により、図書の活用機会が減少している傾向もみられるが、図書館から学校図書館への貸出については一定の利用件数を保っている。
【課題】ICT技術の活用が身近になった学校現場の現状を踏まえ、学校図書館と学校図書館司書の活用・支援方法について検証する必要がある。また、学校により図書の活用頻度に格差があるため積極的な情報提供や意見交換が必要である。

施策8 中高生が参加できる事業の推進（2事業）

【重点事業⑥】高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進
【評価】高校生が編集する読書情報誌「MIYATEEN」発行のほか、館内展示等で中高生自身による情報発信を行うとともに、高校生が参加・参画する催しを開催した。
【課題】読書量の個人差が大きくなる年代であり、より魅力的な読書情報の提供と効果的な情報発信方法の検討が必要である。また、図書館を身近に感じてもらう工夫が必要である。

【重点事業⑤】授業に役立つ資料・情報提供の充実

＜指標＞学校希望図書利用件数（件）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	1,650	1,700	1,740	1,770
実績	1,600	1,456	1,373	1,296	1,312
評価	—	B	B	B	B

【重点事業⑥】高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進

＜指標＞高校生対象の情報発信回数（回）					
年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	5	11	17	23
実績	1	2	13	26	26
評価	—	C	A	A	A

＜基本指標ⅰ＞

最近1年間で読書（紙の本・電子書籍）をしている人の割合（％）

年度	H28	R3	R4	評価
目標	(基準値)	(82.8%)	83.0%	80点
実績	81.9%	78.2%		概ね順調
評価	—	B		

※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値をR3目標値として記載。実績値はR3実施の市民意識調査結果(5年に一度実施)

【評価】読書をしている人の割合は概ね横ばいであり、コロナの影響は少なかった。これは、外出自粛などのコロナ対策が個人の読書活動を阻む要因にならなかったためと思われる。

＜総合評価＞

重点①	重点②	基本指標	総合評価
—	80点	80点	80点
			概ね順調

コロナで中止せざるを得ない事業もあったものの、図書館資料・情報の収集・提供や、図書館機能の充実に取り組むとともに、「よるとしよ」事業等、市民の読書意欲の維持や促進につながる取組を実施した。

【課題】読書バリアフリー法の趣旨を踏まえ、障がいの有無にかかわらず、誰もが読書環境に親しめるよう、多様なニーズを捉えた図書館資料を充実させるとともに、ICT技術の利活用による非来館・非接触型サービスの検討や、関係機関との連携による取組の充実等により、様々な市民の状況に応じた読書環境づくりを進める必要がある。

＜基本指標ⅱ＞ 児童書の貸出冊数（冊）

年度	H28	H30	R元	R2	R3	R4	評価
目標	(基準値)	(1,561,000)	(1,562,000)	(1,563,000)	(1,564,000)	1,565,000	80点
実績	1,560,000	1,561,787	1,485,624	1,310,414	1,410,422		概ね順調
評価	—	B	B	B	B		

＜基本指標ⅲ＞ 高校生の1か月の読書量（冊）

年度	H28	H30	R元	R2	R3	R4	評価
目標	(基準値)	(1.5)	(1.52)	(1.55)	(1.57)	1.60	80点
実績	1.47	1.67	1.63	1.47	1.45		概ね順調
評価	—	A	A	B	B		

※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値を単年度目標値として記載

【評価】児童書の貸出冊数は、コロナ対策による臨時休館の影響はあるが、回復傾向にある。また、高校生の読書量は、概ね横ばいであり、総じて子どもの読書量に大きな変化は見られなかった。

＜総合評価＞

重点③	重点④	重点⑤	重点⑥	基本指標ⅱ	基本指標ⅲ	総合評価
—	—	80点	100点	80点	80点	85点
						概ね順調

おはなし会など対面による事業は規模を縮小したが、ボランティアによるおすすめ本紹介や中高生向けの特集コーナー設置など、コロナでも可能な工夫により、子どもの読書活動に関する取組を実施した。

【課題】ICT技術の進展やコロナの影響により人との関わりが希薄になっている中、子どもの生きる力を育むためには、身近な人からの読み聞かせや、集団での読み聞かせを通じた体験の共有が有効であることから、家庭や小学校における読み聞かせの重要性を伝えていく必要がある。また、中高生が読書や図書館に親しむ機会創出に取り組む必要がある。

目標

施策の評価

基本目標の評価

基本目標Ⅲ

個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています

基本目標Ⅳ

読書活動を介して人と人が交流しています

施策9 地域情報の収集・提供（3事業）

【重点事業⑦】みや学講座の開催

【評価】地域資料・情報の収集・提供を行うとともに、図書館資料を活用した宇都宮に関する講座を実施するなど、市民が宇都宮への理解を深め、郷土愛を育む機会を創出した。
【課題】宇都宮市に関する資料・情報の継続的な収集と、収集した資料・情報の活用機会を増やすため、関係課や関係機関との連携を強化する必要がある。

施策10 各図書館の特色を活かした事業の実施（6事業）

【重点事業⑧】行政支援サービスの推進

【評価】コロナにより研修会や講座数が減少したが、各図書館の地域性や特色を反映した資料・情報収集、講座を実施し、各図書館の特色を生かして事業に取り組んだ。
【課題】多様化する市民・地域課題の解決を支援するためには、幅広い情報収集や関係機関との連携が必要である。また、限られた資源の中で多様な課題への対応力を高めるため、拠点館を中心に地域性や市民ニーズを捉えた資料・情報の収集・提供に取り組む必要がある。

【重点事業⑦】みや学講座の開催

<指標>講座開催数（回）

年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	2	4	6	8
実績	—	3	4	3	2
評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)

施策11 課題解決に役立つ資料や情報の提供（2事業）

【評価】市民が抱える課題解決に役立つ資料・情報の収集・提供及び講座を実施した。また、国立国会図書館による「レファレンス協同データベース」にデータを提供しWEBを通じてレファレンス事例の公開に取り組んだ。
【課題】多様化する市民の課題解決を支援するためには、地域課題や社会情勢の変化に応じた資料の充実とともに、幅広い分野における関係機関との連携や司書のレファレンス能力向上が必要である。また、著作権法の改正に伴う公衆送信に関する措置の動向を注視しながら、WEBを活用したレファレンスサービスの実施を検討する必要がある。

【重点事業⑧】行政支援サービスの推進

<指標>貸出冊数（冊）

年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	1,760	1,820	1,880	1,940
実績	1,700	2,576	2,407	1,314	1,376
評価	—	A	A	(ｺｯ)	B

施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実（2事業）

【重点事業⑨】世代を超えた交流の場の創出

【評価】コロナにより、人の交流を促す事業は規模を縮小せざるを得なかったが、事業の実施回数を増やし、図書館や読書を通じて人と人が交流できる機会を提供した。
【課題】図書館や読書を通じた市民同士の交流機会の創出は重要であることから、ICTの活用も含め、ウィズコロナ時代に対応した実施手法や事業内容を検討する必要がある。

【重点事業⑨】世代を超えた交流の場の創出

<指標>講座・イベントの開催数（回）

年度	H28	H30	R元	R2	R3
目標	(基準値)	19	20	21	22
実績	18	13	14	6	22
評価	—	C	B	(ｺｯ)	A

施策13 市民との協働による読書活動の推進（2事業）

【評価】読み聞かせボランティア研修会や、各図書館のボランティア同士が集う勉強会を開催し、コロナで活躍の場が減少しているボランティアのモチベーション維持につなげるとともに、職員との交流や情報交換・意見交換ができた。
【課題】市民との協働による図書館運営は今後も推進していく必要があるが、図書館事業の減少や規模縮小、人を集めにくい社会状況を鑑み、市民の知識技能を生かす新たな場の創出を検討するほか、交流会等の実施方法を見直す必要がある。

基本指標Ⅳ

レファレンスサービスにおける利用者満足度（％）

年度	H28	H30	R1	R2	R3	R4	評価
目標	(基準値)	(61.3)	(62.3)	(63.2)	(64.1)	65.0	100点
実績	60.3	65.4	67.6	68.3	70.0		順調
評価	—	A	A	A	A		

※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値を単年度目標値として記載

【評価】コロナの拡大に伴う臨時休館の際も、電話やメールでレファレンスを受け付けており、サービスを利用し、「満足」と回答した人の割合は目標を上回った。

総合評価

重点⑦	重点⑧	基本指標Ⅳ	総合評価
—	80点	100点	90点
			順調

コロナの影響で講座等の開催が制限され、図書館資源活用への機会は減少したが、地域資料の充実や市民の課題解決に役立つ資料・情報の収集・提供、レファレンス事例公開等により市民の課題解決を支援した。

課題

図書館資源やレファレンスサービスの機能を市民に利活用してもらえるよう、認知度を高める工夫が必要である。また、関連機関との連携強化を図り、多様化する市民・地域課題に対応した資料・情報の収集・提供に注力するとともに、著作権法の改正に伴うWEBレファレンスサービス実施方法の検討を進めていく必要がある。

基本指標Ⅴ

読書推進事業の参加人数（人）

年度	H28	H30	R1	R2	R3	R4	評価
目標	(基準値)	(24,200)	(24,400)	(24,600)	(24,800)	25,000	—
実績	24,000	25,745	24,420	2,710	9,430		—
評価	—	A	A	(ｺｯ)	(ｺｯ)		

※目標値はR4しか定めていないため、段階的な上昇を見込んだ数値を単年度目標値として記載

【評価】事業の中止や人数制限により目標に達していないが、小規模であっても開催方法を工夫して講座や催しもの実施に取り組み、令和2年度と比較して参加人数が増加した。

総合評価

重点	基本指標Ⅴ	総合評価
100点	—	100点
		順調

基本指標はコロナの影響により評価外であったが、重点事業がA評価の100点であり、総合評価は100点となった。人と人の交流が制限される中、事業への参加者等を増やすのは困難な状況にあるが、図書館を場とした市民同士の交流機会の創出に努めた結果、ボランティアのモチベーションの維持向上や、図書館と市民、また市民同士の結びつきの強化につながった。

課題

これまで継続してきた市民との協働による図書館運営を今後も推進していくためには、ウィズコロナ時代を見据え、読書活動に関わる市民が活躍する場の創出や交流の方法を見極めていく必要がある。読書活動を介した市民同士の交流については、ICT技術の活用を含め、世代間で交流できる仕組みの検討が必要である。

「(仮称) 第3次宇都宮市地域教育推進後期計画」策定に向けた課題について

1 地域教育を取り巻く状況

【社会情勢の変化】

- (1) 少子化, 人口減少
- (2) 人生100年時代の到来
- (3) ウィズコロナへの転換
- (4) 社会全体のデジタル化
- (5) 加速するグローバル化
- (6) 家族形態, 子育て環境の変容
- (7) 若者の社会参画の促進
- (8) 産業構造の変化, 雇用形態の多様化
- (9) 地域における人のつながりの希薄化
- (10) 社会的包摂の実現
- (11) 自然環境の変化, 自然災害の頻発

【国・県の動向】

○ 第3期教育振興基本計画 (H30.3月)

- ・家庭教育支援員となる人材育成や訪問型家庭教育支援の充実
- ・グローバルに活躍する人材の育成
- ・障がい者の生涯学習の推進
- ・学びのセーフティネットの構築

○ 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(H30.12月)

- ・社会教育を基盤とした「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」
- ・多様な人材の幅広い活躍の推進
- ・多様な主体との連携強化
- ・社会教育施設の機能の一層の強化

○ 第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 (R2.9月)

- ・困難を抱える人たちの学習機会の拡充
- ・「命を守る」生涯学習の推進
- ・マルチステージの人生での学びの充実
- ・デジタルデバイドの解消
- ・「オンライン」と「対面」の学びの組み合わせ
- ・リカレント教育の推進
- ・子ども, 若者の地域・社会への参画, 多世代交流

○ コミュニティ・スクールのあり方等に関する検討会議最終まとめ (R4.3月)

- ・すべての学校へのコミュニティ・スクールの導入促進
- ・地域との連携, 協働により, 対話と信頼に基づく学校運営の実現

○ 栃木県生涯学習推進計画 (R3.3月)

- ・「とちぎの生涯学習」の3つの方向性
 - ①「自立」(人生を切り開く), ②「協働」(多様な主体の連携・協働)
 - ③「創造」(ふるさとへの愛着を育み, 地域の持続的発展を図る)
- ・基盤: 学びを支える環境づくり, 多様なライフスタイルに対応した情報提供・相談体制, コーディネート機能の充実, 施設の機能充実

【社会教育委員の会議からの提言】(令和3年5月)

進めるべき取組

- 「学習方法」: (1)参加交流型学習, (2)体験活動・体験型学習, (3)多様な主体と連携した学習, (4)ICTを活用した学習
- 「学習内容」:
 - ①心身の健康, ②防犯意識の醸成, ③家庭教育の意識の醸成, ④人権教育, ⑤キャリア教育・リカレント教育, ⑥情報教育, ⑦地域理解の促進や郷土愛の醸成, ⑧環境理解・環境保護と災害等への危機管理能力の向上

【国・県の動向】(読書関係)

○ 子供の読書活動の推進に関する基本的な計画 (H30.4月)

- ・福祉部局, 学校, 民間団体などとの連携, 協力
- ・家庭における読書を支援する取組の推進
- ・各発達段階に応じた読書活動の推進
- ・障がい児のための環境整備

○ 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画 (R2.7月)

- ・アクセシブルな電子書籍等の普及及び書籍の継続的な提供
- ・アクセシブルな書籍等の量的拡充, 質の向上
- ・障がいの種類・程度に応じた配慮

○ 著作権法の一部を改正する法律 (R3年)

- ・図書館関係の権利制限規定の見直し
- ・放送番組のインターネット同時配信等に係る権利処理の円滑化

○ 栃木県子どもの読書活動推進計画 (H31.3月)

- ・子どもの発達の段階に応じた取組の推進 など

【本市の第6次宇都宮市総合計画改定の方向性】

- (1)スーパースマートシティを支える「NCC」
- (2)スーパースマートシティを構成する「3つの社会」
 - ・絆を深め, 共に支え合う「地域共生社会」
 - ・誰もが活躍し, 様々なモノが交流する「地域経済循環社会」
 - ・未来への責任を果たす「脱炭素社会」
- (3)スーパースマートシティの実現に向けた原動力「人」づくり, 「デジタル」の積極的な活用

2 本市の地域教育の状況

第3次宇都宮市地域教育推進計画前期計画

【基本目標1】の課題

ICT等を活用した学習環境の充実を図るとともに, 交流機会や体験活動ができる機会等, 市民の学習意欲を喚起・向上させる学習機会の充実, 課題解決に取り組む人材育成や, 学習や活動の相談・情報提供機能の充実が必要

【基本目標2】の課題

幅広く, きめ細かな家庭教育支援に向けた取組の充実とともに, ウィズコロナにおいても地域全体で子どもたちの育ちを支える意識の高揚, 教育活動の活性化に向けた支援の強化が必要

【基本目標3】の課題

多様な主体と連携し, 市民の学んだ成果を活動へとつなげられる仕組みの充実や, これからの地域社会を支える人材の育成, 市民の学習や活動を支える相談・情報提供機能の強化が必要

第2次宇都宮市読書活動推進計画

【基本目標I】の課題

図書館機能の充実や市民の読書意欲の維持・促進に取り組んでいるが, 市民ニーズ・状況に応じた資料の充実や読書環境づくりが必要

【基本目標II】の課題

子どもの読書活動を促進しているが, 読み聞かせの重要性を伝える取組や, 中高生が図書館や読書に親しむ機会創出の取組が必要

【基本目標III】の課題

資料・情報の収集やレファレンス事例公開など市民に役立つ資料・情報の充実に取り組んでいるが, レファレンスの認知度向上や実施方法の工夫, 課題に対応した資料・情報の収集・提供が必要

【基本目標IV】の課題

図書館を場とした交流機会の創出などに取り組んできたが, ウィズコロナに即した市民の活躍の場の創出や交流方法の検討が必要

市民意識調査結果 (抜粋)

【生涯学習】学習や活動をしている市民の割合

- ・「している」(H28)38.3%⇒(R3)23.9% ▲14.4%
- 学習情報等を得る方法は, 「SNS」が増加, 紙媒体は減少。65歳以上は, 「地域の人」「回覧板」が多い。

【家庭教育】家庭の教育力が低下していると思う市民の割合

- ・「思う」(H28)42.1%⇒(R3)30.4% ▲11.7%
- 家庭教育で特に問題になっていると思うことは, 「過保護・過干渉な親の増加」が4割近くと多い。

【地域のこゝろ】地域の教育力の状況をどう思うか

- ・「わからない」(H28)30.1%⇒(R3)36.7% +6.6%
- ・「低下している」(H28)41.3%⇒(R3)39.2% ▲2.1%
- ・「向上している」(H28)12.7%⇒(R3)11.1% ▲1.6%
- 「低下している」と答えた理由は, 「近所の人々が親交を深められる機会の不足」(54.5%)が多い。

【人づくり全般】学び直したいと思う分野について

- ・「人文科学」37.3%, 「芸術」28.5%
- ・「学び直したい分野は特になし」21.2% など
- 8割近くは何かしらを学び直したい希望がある

【読書活動・調べもの】最近1年間の読書をする時の媒体

- ・「紙の本のみ」(H28)66.4%⇒(R3)48.7% ▲17.7%
- ・「紙と電子書籍」(H28)13.5%⇒(R3)24.7% +11.2%
- 55歳以上では「紙の本のみ」が50%以上。54歳以下では「紙と電子書籍」が30~40%ほど多い。

【図書館】最近1年間で図書館や図書室を利用した人の割合

- ・「利用した」(H28)38.7%⇒(R3)28.9% ▲9.8%
- ・「過去に利用した」(H28)19.9%⇒(R3)31.2% +11.3%
- ⇒(図書館に望むこと)「読みたい本が豊富」、「調べたいことを聞ける」、「大きな文字, 点字・声の図書がある」など。

3 策定に向けた課題

【基本目標①】市民一人ひとりが主体的に学習活動に取り組んでいます

- ・デジタルトランスフォーメーションなど, さらに高度な情報化が進む中, 新しい技術を活用した学習やつながりづくり等の検討が必要
- ・様々な困難を抱える人達への学習機会の充実とともに, 学び直しや社会の変化に対応した学習など, これからの社会を支える人材の育成に向けて, 多様な分野が連携・協力しながら学習機会を創出していくことが必要
- ・市民の学ぶ意欲を引き出せるよう, 地域や世代ごとの市民ニーズを捉え, 内容や実施方法を工夫した学習機会の提供, 読書活動の推進, 図書館サービスの充実などを図っていくことが必要

【基本目標②】地域・学校・家庭が連携・協力し, 地域全体で教育活動に取り組んでいます

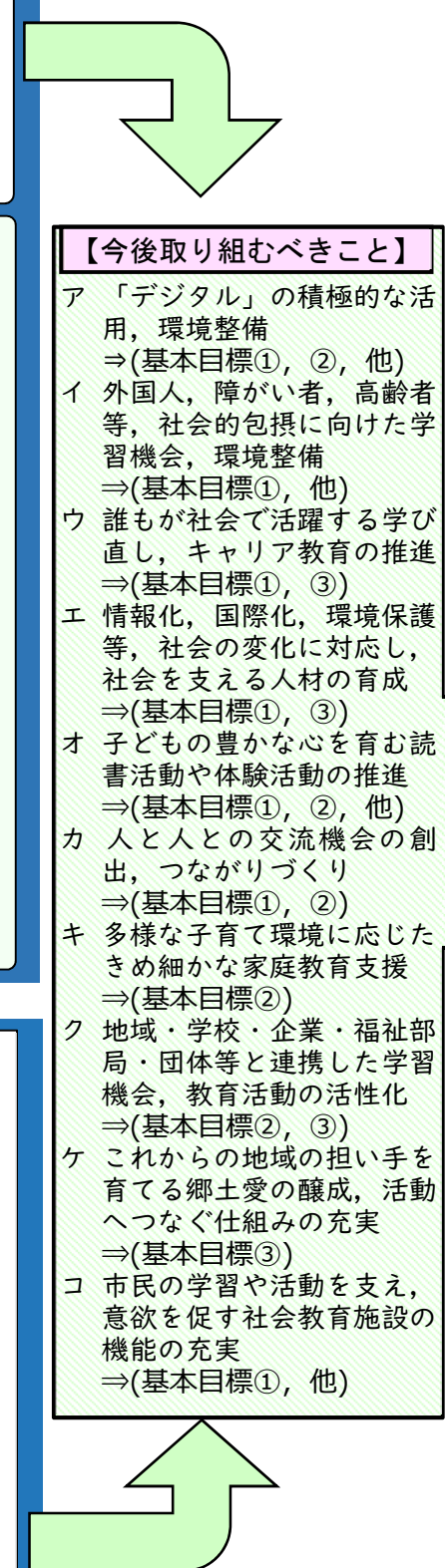
- ・子育て家庭に対し, 悩みの解決や仲間づくり, 気づきを促す学習機会の提供, 読書や読み聞かせの重要性を伝える取組等とともに, アウトリーチの手法やICTを活用し, 個別具体的にきめ細かい家庭教育支援に取り組んでいくことが必要
- ・魅力ある学校づくり地域協議会については, コミュニティ・スクールの課題や必要性を精査しながら, 各協議会の活動の充実を図ることが必要
- ・コロナ禍においても, 地域住民や様々な主体が連携・協働して子どもたちの多様な体験活動の機会を創出するなど, 地域ぐるみで子どもの豊かな心の育成を図る意識の高揚, 活動の充実が必要

【基本目標③】多様な主体や人がつながりを深め, 学んだ成果を生かして活動しています

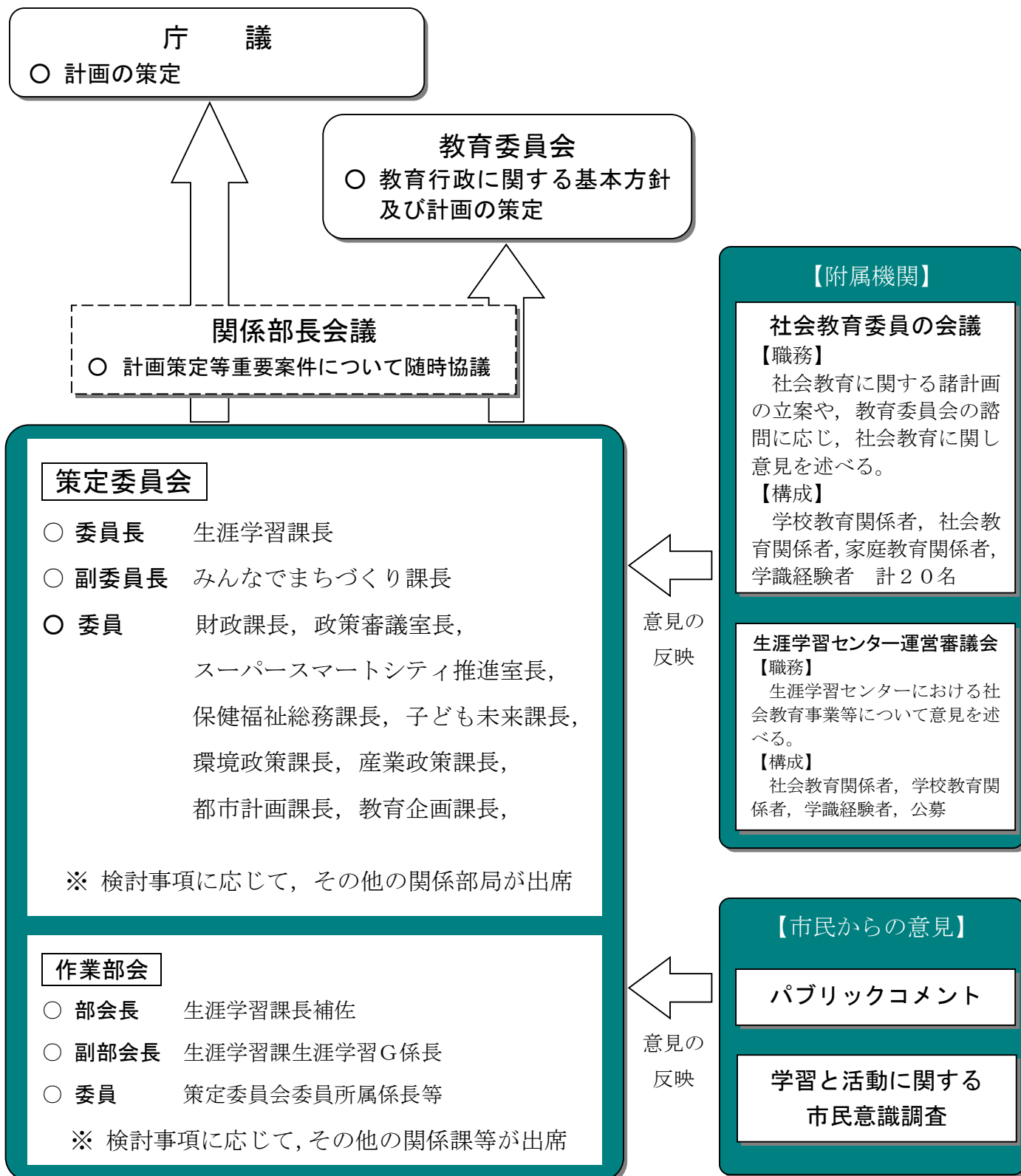
- ・社会の激しい変化に伴い, 様々な分野で多様化・複雑化する課題の解決に向けて, 指導者やボランティアとなり活躍できる人材の育成が必要
- ・再就職を望む高齢者や産後女性, 転職を望む就労世代などが, 求める能力を身につけることができるよう, 高等教育機関や企業等と連携し, 高度な学習の場へとつなぐ取組の充実が必要
- ・地域を支える人材の育成に向け, 地域住民の地域理解を促す取組, 活動を促す取組を進めるとともに, 未来の地域社会, 地域経済を支える子ども・若者への郷土愛等を育む取組の充実が必要

【その他】市民の主体的な学習や活動を支え, 促す, 生涯学習推進の基盤づくり

- ・図書館における誰もが利用しやすいバリアフリー環境の整備や資料の充実, ICTの活用等による読書環境の充実に取り組んでいくことが必要
- ・市民の学習と活動の場となる生涯学習センター等において, ICTへの対応や多言語表記など, 時代の変化や地域の特性に応じて, 誰もが利用しやすい, 利用を促す環境整備が必要
- ・図書館におけるレファレンスサービス, 生涯学習センターにおける学習相談など, 市民の学習等における課題を解決へと導く相談機能の認知度向上, サービスの充実を図ることが必要



「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画 後期計画」に係る策定体制



※ スーパースマートシティの実現を通じた SDG s への貢献に向けて、その原動力となる人づくりを様々な分野で幅広く検討していくための関係課にて構成

調査表

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名		事業の内容	活動指標名と目標値及び実績							事業の進捗	事業の評価と今後の方向性	
					担当課			活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2	R3			R4
基本目標Ⅰ	施策1	1	○		生涯学習センター等における学習機会の充実	市民ニーズに応じた学びの機会や場の提供、より参加しやすい環境整備に取り組むことにより、全ての市民の事業への参加を促進する。	生涯学習センター等の利用者数（千人）	目標値		1,790	1,792	1,795	1,797	1,800	(コナ)	令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、各施設の利用制限や講座の中止等を得なかつたが、講座においては、講師との調整による開催時期の変更や、徹底した感染症対策、ZoomやYouTubeを活用しながら講座を開催してきたところであり、生涯学習センターの貸館や図書館利用についても、換気や消毒など、感染症対策の徹底、周知を行い、令和2年度より利用者数は微増した。 今後は、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中においても、市民の学習、活動、交流への意欲を維持・向上させていく必要があることから、参加したいと魅力を感じる講座の実施や、安心・安全に学習や活動ができる場の提供、学習や活動を通して交流する機会の創出等に取り組んでいく。	
					生涯学習課			実績	1,788	1,761	1,754	1,099	1,237				
		2	○	○	ICTに対応した学習の推進	情報機器を介した講座の提供とともに、情報機器の取り扱いやインターネットの安全な利用方法など、情報技術を安全に活用するための講座を実施する。	ICTを活用し提供した講座数（講座）	目標値		1	3	5	7	10	A 順調	ZoomやYouTubeを活用した子育て講座やものづくり講座の提供に取り組み、順調に講座数を増やしているが、これからのウィズコロナを考慮の中で、ICTを活用した講座においても、学びを通して人と人がつながる機会を創出するなど、より効果的なICTの活用を検討していく必要がある。 今後も積極的な講座の配信とともに、オンライン上で受講者が発言し、交流も持てるワークショップの開催など、様々な面でICTのさらなる活用を検討しながら講座の充実に努める。	
					生涯学習課			実績	-	0	1	10	14				
		3	○		健康づくりを支援する取組の充実	生活習慣の改善や運動に関する講座の開催、介護予防に取り組む自主グループの活動支援など、高齢者を中心とした健康づくりを支援する。	生涯学習センターにおける健康づくり講座の実施回数（回）	目標値		33	34	35	36	38	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大により、中止せざるを得ない講座もあったが、開催時期を変更するなどしながら各生涯学習センターで健康づくりの講座に取り組み、講座の実施回数は戻りつつある。 健康づくりの講座等を実施する上では、コロナ禍においても、市民の活動や運動を促進させていくことが重要であることから、講座の安全・安心な実施とともに、受講後も個人で実施できる運動等の紹介や、受講者が運動等を行う団体・グループ等と結びつく仕組みを検討するなど、受講後が継続的・自主的に健康づくりに取り組んでいけるよう努める。	
					生涯学習課 高齢福祉課			実績	32	33	35	13	25				
		4			学習情報提供事業・学習相談事業の充実	市民に有用な学習情報提供の仕組みづくりや、生涯学習指導員を配置して、学習相談を実施する。	マナビス登録件数（講座、イベント、施設、団体、人材バンク（講師・地域の担い手））（件）	目標値		5,150	5,190	5,235	5,275	5,320	B 概ね順調	登録件数は順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少、令和3年度の登録件数は令和2年度より微増となった。 今後は、市民一人ひとりの主体的な学習活動の支援に向けて、引き続き、市民へのシステムの周知に取り組むとともに、団体・サークルや講師等の多様な学習情報を登録し、マナビスの利用促進を図る。	
					生涯学習課			実績	5,081	5,166	5,437	4,633	4,721				
		5			宇都宮市民大学の充実	高度で専門的な学習要求に応える学習機会を提供するとともに、学んだ市民がその成果を地域に還元することで、地域社会の活性化や持続的発展が図れることを目的とする。	市民大学受講者数（人）	目標値		630	700	700	700	700	B 概ね順調	順調に受講者数を伸ばしてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により講座を中止せざるを得ず、令和2年度は著しく減少した。令和3年度においても、緊急事態宣言の発令などにより、様々な変更を余儀なくされたが、可能な限り日程や回数等の調整を行うなど柔軟に対応しながら実施し、年間を通じて例年と同程度の修了率を維持することができた。また、公開講座については、開催を中止したが、事前の申込者のうち新規申込者が約8割を占め、19歳以下を含め幅広い年代層からの申込みがあるなど、市民の学習意欲の高揚につながる講座を企画することができた。 今後は、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、令和3年度に人気のあった講座を事務局企画枠「リクエスト講座」として実施する。また、2年続けて中止となった公開講座の実現に向け、オンライン開催など新型コロナウイルス感染症の影響に左右されない実施手法について検討する。	
					生涯学習課			実績	616	680	689	224	533				
6			地域教育メッセの充実	市民活動団体や自主学習グループと市民が交流を通して活動紹介・情報交換をし、今後の活動の活性化や機会づくりの場とする。	人づくりフォーラムの来場者数（人）	目標値		7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	(コナ)	開催目的の方向性が一致する「うつのみや人づくりフォーラム」と同時開催をしており、令和2年度、令和3年度についても同時開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止とした。 今後は、市民活動団体や自主グループの活性化に向け、各地区の生涯学習センターで実施している文化祭の状況などを把握しながら、事業のあり方について検討していく。			
			生涯学習課			実績	6,000	7,000	7,000	-	0						
7			高齢者の生きがいがづくりの推進	生涯学習センターや老人福祉センターにおいて、健康づくりや趣味の講座の開催、看護師による健康相談などを実施する。	生涯学習センター講座における60歳以上の受講者数（人）	目標値		2,870	2,900	2,930	2,960	3,000	(コナ)	令和元年度末から、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く中、生涯学習センターにおいては、中止せざるを得ない講座もあったが、開催時期を調整するなどしながら講座の開催数を増やすなど、令和2年度より受講者の増につながっている。また、老人福祉センターにおいても新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、感染症対策を徹底し、利用者数は微増した。 今後も、高齢者が心身ともに健康で充実した生活を送れるよう、生きがいがづくりに資する取組を進めていく必要があることから、生涯学習センターおよび老人福祉センターにおいて、引き続き感染症への適切な対策を講じていくとともに、高齢者が利用及び参加しなくなる魅力的な事業、今後の生きがいに気づききっかけとなる事業などを実施する。			
			生涯学習課 高齢福祉課		老人福祉センター延べ利用者数（千人）	目標値		264	277	290	303	316					
8			読書活動の充実	市民の誰もが気軽にかつ快適に図書館を利用することができ、生涯にわたり読書活動に親しむことができるよう、ソフト・ハード両面から読書環境の充実を図る。	図書館利用者数（人）	目標値		945,200	954,500	964,200	973,500	983,600	B 概ね順調	新型コロナウイルスの感染拡大以降、臨時休館等による利用者数への影響があったものの、一部の講演会等については可能な限り感染症対策を講じて実施するなど、利用者数は回復傾向である。 コロナ禍における市民の様々な状況・ニーズの変化を捉えた資料・情報の充実や読書機会の提供、また、令和元年度に施行された「読書パリアフリー法」への対応が求められていることから、今後は、障がいの有無にかかわらず、すべての市民が等しく読書に親しめる環境づくりができるよう、ICTの利活用も含めた多様な手法による読書機会の創出について検討を進める。			
			中央図書館			実績	935,887	916,254	1,009,426	795,493	810,187						
8-1			図書館におけるICTの導入の促進	デジタル及びインターネット情報提供の強化や、蔵書管理の効率化に資するICTの導入を促進するとともに、デジタルアーカイブの推進や、電子図書の導入検討も進めていく。	図書館におけるインターネット利用数（人）	目標値		84,000	86,000	88,000	90,000	103,500	B 概ね順調	新型コロナウイルスの感染拡大以降、臨時休館等の影響により図書館PC等の利用者数は減少傾向にある。一方で、非来館・非接触型サービスへの需要が高まっていることから、コロナ禍でも市民が読書活動に親しめるよう電子図書導入などICTの利活用が重要となっている。 今後は、電子図書試行導入の検証や本格導入に向けた検討を進めるほか、令和5年度に予定しているシステム及び機器更新に合わせ、利用者の利便性を向上させる新機能の検討を進める。			
			中央図書館			実績	81,819	117,352	170,329	86,073	81,139						
8-2			子ども読書活動の推進	小中学生への読書支援を継続する一方、高校生に対して、将来へと繋がる柔軟な考え方や生き方を培う読書の重要性を発信し、読書推進の充実を図る。	児童書の貸出冊数（冊）	目標値		1,598,000	1,598,500	1,599,000	1,599,500	1,600,000	B 概ね順調	令和3年度は、令和2年度に比べ児童書の貸出冊数は増加したが、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館や各事業の中止・規模縮小等が続いていることから、全体的には減少傾向である。 子どもが継続的に読書に親しむためには、家庭へのはたらきかけや子どもの読書に関わる人材の確保が重要であることから、引き続き、読書機会の格差の解消やボランティアの確保及び育成に取り組むほか、小学生に比べて読書量が減少する中高生生に向けて、図書館に興味を持ってもらうような仕組みを検討するなど、すべての子どもが読書に親しめる機会の充実を図る。			
			中央図書館			実績	1,597,812	1,531,787	1,485,824	1,310,414	1,410,422						
8-3			図書館の環境整備の推進	安全・快適な図書館利用、また施設・設備の機能向上を図るため、計画的に改修等を行うとともに、効果的・効率的な管理運営に向け体制の充実を図る。	図書館の読書環境に関する利用者満足度（%）	目標値		80	80	80	80	81	A 順調	東図書館や河内図書館の設備の改修工事などを施工しており、読書環境の利用者満足度が高いことから順調である。 引き続き、施設の老朽化への対応やユニバーサルデザインへの配慮、図書館機能の充実などが必要であることから、図書館施設の計画的な改修、整備を進めていく。また、今後も市民ニーズへの対応や将来にわたり安定した図書館サービスを提供するための職員体制の整備、財源確保に向けた取組を進める。			
			中央図書館			実績	79	82	84	86	86						
9			図書館レファレンスサービスの利用促進	レファレンス事例のデータベースやバスファイナダーを作成するとともに、テーマに沿った資料の選書・リスト作成を行いレファレンスサービスの利用促進を図る。	レファレンスに対する利用者満足度（%）	目標値		100	100	100	100	100	B 概ね順調	様々な市民ニーズや今日の課題に対応できるサービスの充実を進めており、令和3年度は、市民や地域が抱える課題解決と市民の調査研究活動を支援するため、レファレンス事例集の整理を進めたほか、国立国会図書館が実施するレファレンス共同データベースで事例の公開を行い、満足度は令和2年度より高くなった。 今後は、レファレンスサービスの満足度とともに、サービスの認知度をより高めていく必要があることから、引き続きレファレンス事例集の整理と一般公開を進めるとともに、著作権法の改正に伴う公衆送信に関する措置の動向を注視しながら、WEBを活用したレファレンスサービスの実施を検討するなど、サービスの充実や認知度の向上を図る。			
			中央図書館			実績	-	98	97	93	95						

調査表

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性			
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3	R4	
基本目標 I	施策 2	10	○		生活課題解決型講座の充実	生涯学習センター等において実施してきた、具体的かつ身近な生活課題の解決に資する講座の充実を図る。	生活課題解決型講座受講者数(人)	目標値	2,700	2,725	2,750	2,775	2,800	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大による講座の中止や規模の縮小により、受講者数は半数以下となったが、感染防止対策の徹底や、開催時期を変更するなどして取り組み、令和3年度は令和2年度より微増した。時期の変更などが難しく中止せざるを得ない講座もあり、実施方法の柔軟性が必要であることから、今後は、必要に応じて講座の一部を動画等の配信に変更するなど、講師との事前調整から様々な状況を想定して準備を進めることで、市民が自らの生活を改善し、より豊かな生活を送るための学習機会を安定して提供できるよう取り組んでいく。		
					生涯学習課		実績	2,676	2,677	2,532	1,000	1,055					
		11	○		大学生等の参画による多世代交流の推進	関係機関や大学等と連携し、子どもの体験活動に大学生等が参画することで、子ども・大学生・指導者等の多世代交流の機会を創出する。	大学生等が参画した子どもの体験活動実施回数(回)	目標値			1	1	2	3	(コナ)	生涯学習センターの講座において、大学と連携して実施していたが、子どもたちの体験活動や多世代交流という性質上、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止や内容の変更を余儀なくされており、実施の予定は立てるもの思うように実施できない状況が続いている。新型コロナウイルス感染症への懸念が続く中、大学側も学生を参加させづらい状況にあることから、今後、ウィズコロナの中でどのように体験活動や多世代交流を進めていくことができるのか、実施方法や事業のあり方等を検討していく。	
					生涯学習課		実績	-	-	3	0	1					
		12			コミュニケーション力向上学習の推進	グループワークや参加者同士の意見交換など、参加交流型の学習を通じたコミュニケーション力の向上に資する学習機会の充実を図る。	参加交流型学習を取り入れた講座実施回数(回)	目標値	48	50	53	56	60	(コナ)	様々な講座に参加交流型学習を取り入れており、新型コロナウイルスの感染以降、実施回数は減少したが、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、パーティションの設置などの工夫をしながら実施回数を戻しつつある。講座に参加した市民が、自身のコミュニケーション力の向上を図るとともに、学習を通して他者と交流を持ち、つながりをつくっていくことも重要であることから、今後は、人と人が直接交流を持つこととあわせ、ICTを活用した交流を検討するなど、安全で気兼ねのない交流や、受講後も継続していきけるつながりづくりなどに結び付け実施手法を検討していく。		
					生涯学習課		実績	46	41	57	21	35					
		13			子どもの体験活動・体験学習機会の充実	商店街の実際の店舗等において職業体験を行う「キッズみや」や、各生涯学習センター・青少年活動センター等において行われる、自然体験ものづくりや野外体験活動、科学実験などの体験学習機会の充実を図る。	キッズみやや参加者数(人)	目標値	260	270	280	290	300	(コナ)	商店街の協力のもと実施する職業体験「キッズみや」については、新型コロナウイルスの感染拡大により中止としており、生涯学習センターにおける青少年対象講座については、新型コロナウイルスにより令和2年度の実施回数は著しく減少したものの、感染対策を行いながら令和3年度には実施回数を増やせた。今後、ウィズコロナの中においても、青少年の体験学習機会の充実を図っていくことは重要であることから、新型コロナウイルス感染症の感染対策の徹底や、実施方法、体験人数などを検討しながら、引き続き、「キッズみや」や青少年対象講座などで多様な体験学習機会の提供に取り組んでいく。		
					子ども未来課 生涯学習課		目標値	88	91	94	97	100					
		14			大人に対する人づくり啓発事業の実施	保護者が集まる機会や事業所等における出前講座、人づくりフォーラムの実施、企業等に対する宮っ子の誓いの普及啓発を行う。さらに、市全体で共有する人づくりの目標を策定し、普及啓発を行う。	人づくりフォーラムの来場者数	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大により人を集めるイベントの中止は続いているが、令和3年度は、オンライン等を活用した人が集まらない手法で事業を実施(市HP上における職業紹介、人づくり講演動画の配信、パネル展示等)しており、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが懸念されることから、事業内容を検討する必要がある。今後は、オンライン等で実施した事業の成果を検証し、人づくり推進委員の意見を伺いながら、効果的な開催手法や事業内容を検討する。また、行動事例集や各種広報媒体を通して、コンクール受賞作品をマンガやイラスト等を活用して紹介するなど、積極的な50の言葉の周知・啓発を図る。		
					教育企画課		実績	6,000	7,000	7,000	0	0					
		基本目標 II	施策 3	15	○	○	様々な困難を有する人の学習活動への支援	高齢者や障がいのある人、経済的・家庭的な困難を有する人など、学習活動に参加することが困難なあらゆる人々への学びの機会や場を提供する。	様々な困難を有する人への学習提供回数(回)	目標値	4	5	6	8	10	(コナ)	学習活動への参加が困難な人たちが集まりやすい機会や場を捉え、講座等を届ける取組を進めてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、困難を抱える人たちへの働きかけは思うように実施できなかった。今後、困難を有する人に対して学習活動の支援を充実させていくためには、感染症対策とともに、高齢、障がい、家庭環境など、抱える困難の違いにより適切なアプローチを確立させていくことが必要であることから、困難に応じて必要となる関係機関との連携や効果的な実施手法を検討していく。
							生涯学習課 中央図書館		実績	3	6	7	2	3			
				再(2)			ICTに対応した学習の推進	情報機器を介した講座の提供とともに、情報機器の取り扱いやインターネットの安全な利用方法など、情報技術を安全に活用するための講座を実施する。	ICT化への対応に係る講座数(講座)	目標値	4	6	8	10	12	(コナ)	パソコン等を使用した講座等に着実に取り組んできた中、新型コロナウイルスの感染拡大により講座数は減ったが、令和3年度から、みんなでまちづくり課、スーパースマートシティ推進室と連携し、高齢者向けの「スマートホン基礎講座」を実施し始めた。「まん延防止等重点措置」により予定した講座の多くを中止せざるを得なかったが、講座数は増加した。情報機器をほとんど扱えない市民への対応や、トラブルに巻き込まれない安全な利用など、情報格差への対応は社会的課題でもあることから、今後も市内各課との連携を図りながら、情報機器になじみのない人も学びやすい初心者向けの講座に取り組むとともに、ICTの利活用を少しずつステップアップしていける講座内容なども検討しながら進めていく。
							生涯学習課		実績	2	4	5	1	5			
16				○	NPO・大学・企業等と連携した学習の推進	企業等が持つ最新の技術や情報、ノウハウなどの教育力の活用を推進するとともに、企業等と地域や学習者をつなぎ、学習した成果を活用し活躍する場の拡大を図る。	企業等と連携した講座開催数(講座)	目標値	32	34	36	38	40	A 順調	講座の企画や実施にあたり、地域団体や大学、企業等の様々な組織と積極的に連携を図っており、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う講座の中止等により実績は若干減少したが、令和3年度には連携した講座数を増やし、目標値を上回る実績を継続している。今後は、質の高い講座の提供とともに、学習を通して学校や企業、地域が関係を深めるきっかけづくりは重要であることから、連携による大学や企業等の持つノウハウを生かした講座や、学校や企業、地域が接する学習機会の提供に向けて緊密な連携を図っていく。		
					生涯学習課		実績	30	44	47	39	46					
17				○	学び直しの支援	スキルアップや再就職等に向けた学び直しを支援するため、大学等の高等教育機関が実施する公開講座等の情報提供を行うほか、高等教育機関と連携し、社会人や高齢者等の学び直しの機会の拡充を図る。	社会人の学び直しに係る学習機会の拡充回数(回)	目標値			1	2	3	5	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、スキルアップや就職等につながる専門的な学習について、高等教育機関と連携した学習機会の提供はできなかったが、高等教育機関等から学習情報を収集し、市ホームページ上で情報提供を行った。今後は、大学や職業能力開発校等が持つ専門的、実用的な知識や技術と市民を結びつけていくことが重要であることから、市民の専門的な学習を支援できるよう、高等教育機関等との連携の手法や事業のあり方について検討していく。	
					生涯学習課		実績	-	-	1	0	0					
18					人権教育の推進	ヘイトスピーチやLGBT、いじめ、虐待等、人権が市民一人ひとりの身近な問題であるとの認識を広めるため、イベントや講座等を通して、人権意識についての啓発・学習機会を提供する。	生涯学習センターにおける人権に関する講座実施回数(回)	目標値	36	37	38	39	40	(コナ)	国際理解や女性の社会参画、高齢者の悪質商法についてなど、様々なテーマを講座に取り入れたが、令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止せざるを得ない講座が多かった。人権は、テーマによっては自分に関係ないと考える人や、難しいと捉える人もおり、敬遠されてしまうことがあるため、コロナ禍における実施手法の検討とともに、市民が興味を持ちやすいテーマを入り口として、人権についての理解を深めていけるよう取り組んでいく。		
					生涯学習課 男女共同参画課		実績	35	42	42	16	18					
19			超高齢社会に対応した学習の推進	介護保険や医療制度など、高齢者が必要とするサービスや、知っているに役に立つ新しい情報などについて、各種講座や講演会を開催する。	出前保健福祉講座の実施回数(回)	目標値	100	100	100	100	100	B 概ね順調	令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、受講者数は例年より少なかったが、受講希望者の要望に基づき、オンラインでの講座を試みるなど新しい生活様式に即した方法での講座を実施することができた。今後は、高齢者が必要な知識を得られるよう、引き続き感染症への適切な対応を講じていくとともに、高齢者に関わる様々な制度やサービス等についての学習機会を提供していく。				
			生涯学習課 高齢福祉課		実績	125	144	130	37	82							
20			多文化共生に向けた教育の推進	言葉や生活習慣の違いなど互いの文化的違いを認め合い、地域の一員として共に生き、共に支え合う意識を醸成するため、国際交流や多文化共生に関する学習機会の提供を推進する。	国際理解・多文化共生に係る講座実施回数(回)	目標値	34	35	36	37	38	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、令和3年度も国際交流・多文化共生に向けた講座を思うように実施できなかった。外国人住民の増加や、情報技術の発達によりグローバル化に拍車がかかる中、市民一人ひとりが多様な文化を理解する広い視野、人種や国籍を超えた共生や協働の意識を持つことが重要であることから、ウィズコロナの中での実施方法の検討や、引き続き国際交流プラザ等の関係機関と連携しながら、国際理解・多文化共生の学習機会の充実に向けて取り組んでいく。				
			生涯学習課 国際交流プラザ		実績	33	31	32	12	12							
21			ワーク・ライフ・バランスの理解に向けた啓発事業の実施	働き方の見直しや家庭・地域への参画促進のため、仕事と育児・介護等の両立や男性の家庭参画、女性リーダー養成など講座の充実を図るなど、仕事と生活の調和に向けた普及啓発を行う。	ワーク・ライフ・バランスに関する講座の実施回数(回)	目標値	7	7	7	7	7	A 順調	令和3年度もワーク・ライフ・バランスに関する講座に積極的に取り組み、講座の実施回数は単年度目標値を上回った。今後は、男女が共に仕事や家庭生活などにバランス良く参画できる社会を目指し、働き方の見直しや仕事と育児・介護等の両立や男性の家庭参画など、受講者のニーズを踏まえながら、講座メニューの充実を図るとともに、周知の一層の強化に取り組んでいく。				
			男女共同参画課		実績	15	12	13	7	8							

調査表

参考2

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性	
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3
基本目標Ⅱ	施策4	22	○		家庭教育支援講座の充実	子育て家庭の家庭教育に対する意識の高揚を図るとともに、親力の向上を図るため、保護者の気づきを促す講座や親子双方の育ちを支援するための講座などについて、地域で育成した人材を活用し、充実を図る。	家庭教育支援に係る講座等の実施回数(回)	目標値	47	47	57	57	60	(コナ)	参加者の満足度の高い参加型学習を実施するなどしながら、令和元年度まではほぼ同数の講座を開催してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、感染状況を注視しながら講座を開催しており、講座によってはZoomを活用することで自宅にいながら受講できるようにするなど、実施方法を工夫しながら、講座の実施回数を少しずつ増やしている。今後も、子育ての悩みや親の気づきを促す講座に取り組むことで、家庭教育に対する意識の高揚を図っていく必要があることから、さらなるICTの活用なども検討しながら、コロナ禍においても継続的に子育て世代の家庭教育を支援できるような講座の開催に取り組んでいく。
					生涯学習課	実績	43	45	43	12	22				
		23	○		家庭教育支援活動者の育成	子育てをする家庭の教育力向上を目指し、きめ細かな支援を行うため、家庭教育サポーターと親学習プログラム指導者を統合し、地域における家庭教育支援の活動者として育成する。	家庭教育支援活動者数(人)	目標値	25	25	30	40	50	(コナ)	定期的に研修会を開催し、家庭教育支援活動者の育成に取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、新規の登録者がいないことや、既存の登録者も都合により活動を休止する人などがあることにより、活動者数が減少してきている。そのため、新規登録につながる人材を確保する必要があることから、引き続き、親学出前講座や情報誌等を活用した家庭教育支援活動者の周知や募集などを行い、新規登録者の確保に努めるとともに、研修会の開催により活動者の養成を図る。
					生涯学習課	実績	-	27	29	28	25				
	24	○		訪問型家庭教育支援の仕組みづくり	地域ぐるみで親子の育ちを支え、家庭の教育力の向上を図るため、関係機関と連携して子育てをする家庭等に出向くなど、きめ細かな家庭教育支援の仕組みづくりに取り組む。	訪問型家庭教育支援家庭訪問家庭教育支援回数(回)	目標値	/	20	25	35	55	C やや遅れ	子ども家庭課との連携による訪問事業を活用した事業周知に加え、保育園、幼稚園、小中学校等への情報誌の配布や就学時健康診断の機会の活用など、広く事業を周知してきた中、問い合わせが2件あり、うち1件は家庭訪問につなげることができた。今後は、支援を必要とする保護者がきめ細かな支援を受けられるよう、既存事業を活用した周知等を継続するとともに、庁内関係課との連携を図りながら、より効果的な「おやがく相談」の手法等について検討することで、個別具体的な家庭教育支援を進めていく。	
				生涯学習課	実績	-	/	0	0	1					
	25			「親学」の推進	保護者が集まる機会を捉えた親学に関する講話等の実施や、情報誌の発行などを通して、子育てに必要な知識や子どもとの関わり方などを伝える。	親学出前講座の実施回数(回)	目標値	130	135	140	145	150	(コナ)	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施件数は大幅に減少したままであるが、感染症対策を講じながら家庭教育支援団体や企業等と連携したプログラムの提供を継続することができた。今後は、引き続き感染症対策を講じながら事業を推進するとともに、より一層の家庭の教育力向上を図るため、年長児の保護者懇談会や就学時健康診断など、多くの保護者が集う機会の活用や、数年間実績のない小中学校への個別の働きかけなどに取り組む。	
				生涯学習課	実績	126	141	133	26	45					
	施策5	26	○		魅力ある学校づくり地域協議会活動の充実	地域の実情に応じて「魅力ある学校づくり地域協議会」が活動を円滑に実施するとともに、学校運営への参画機能の強化を図るため、コーディネーターの育成や「魅力ある学校づくり地域協議会」の組織強化に取り組む。	魅力ある学校づくり地域協議会による学校教育支援活動回数(回)	目標値	930	935	940	945	950	(コナ)	令和元年度には順調に実施回数を伸ばしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降は、各協議会の活動は大幅に縮小した。しかし、地域と学校が連携し、実施手法の工夫などを行いながら、地域の教育力を生かした協議会活動に取り組んでおり、実施回数は令和2年度から微増した。今後は、地域の教育力を生かした「学校教育の充実」と地域ぐるみでの子育てによる「家庭・地域の教育力向上」を図るため、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「魅力ある学校づくり地域協議会」活動を支援する。
					生涯学習課 学校教育課	実績	929	912	1,044	564	623				
		27			地域における学習支援活動の推進	地域の中学生の学習習慣の定着のため、「魅力ある学校づくり地域協議会」が地域のニーズに応じて自主的に取り組む学習支援活動を支援する。	地域未来塾実施校数(校)	目標値	5	9	16	21	25	(コナ)	令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、学習支援活動を計画していたものの実施することができなかった地域協議会もあった。今後は、地域、学校の意向を踏まえつつ、各地域協議会の自主性を尊重しながら、各地域の実情に応じて様々な手法により実施することとし、「地域未来塾」未実施校と連携した学習支援モデル事業の実施を通して、事業の更なる周知を図り、より多くの地域で実施できるよう取り組むとともに、既に実施している地域協議会への継続支援に取り組む。
	生涯学習課				実績	4	5	7	9	12					
28			「街の先生」活動事業の推進	地域と連携した教育を実践するため、各学校が、教育活動のねらいに即して登録者リストの中から支援等を要する活動内容に適した者を選び、「街の先生」として活用する。	街の先生支援人数(延べ人数)	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	B 概ね順調	新型コロナウイルスの感染拡大以降、登録者数は減少してきており、令和3年度についても、令和2年度から微減した。今後は、学校において、地域の教育力を生かした様々な教育活動を充実させるために、「街の先生」への登録を促進するとともに、各学校における活用を促進していく。		
			学校教育課	実績	5,295	6,484	7,201	5,117	4,718						
施策6	29	○		宮っ子ステーション事業の充実	「子どもの家」と「放課後子ども教室」を一体的に実施し、地域、学校等と連携して、児童の安全安心な居場所を設けるとともに、宮っ子ステーション実施校区の拡大など事業の充実を図る。	宮っ子ステーション実施校区数(校区)	目標値	53	57	61	64	67	B 概ね順調	放課後子ども教室については、新型コロナウイルスの影響により活動を休止する校区もあるものの、着実に各校の立ち上げを進めており、令和3年度は新たに2校での立ち上げを行った。今後、未実施校区に対しては、それぞれの学校区で抱える課題を把握し、その実情に応じた立ち上げ支援の強化に取り組むとともに、実施校区に対しては、学習支援やスポーツ・文化活動、交流活動などの活動内容のさらなる充実に向け、支援を継続していく。また、子どもの家については、令和3年度、55校に指定管理者制度を導入し、効果的な運営に努めるとともに、地域が運営する12校についても市がきめ細かな支援を行うなど、適切な運営を図ったところである。令和4年度からは、全ての子ども家に指定管理者制度が導入されることから、引き続き指定管理者に対し、運営状況の把握や必要な支援・指導・助言を実施することで、持続的で安定した施設運営が出来るよう取り組んでいく。	
				生涯学習課	実績	52	53	54	53	54					
	再(27)	○		地域における学習支援活動の推進	地域の中学生の学習習慣の定着のため、「魅力ある学校づくり地域協議会」が地域のニーズに応じて自主的に取り組む学習支援活動を支援する。	地域未来塾実施校数(校)	目標値	5	9	16	21	25	(コナ)	令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、学習支援活動を計画していたものの実施することができなかった地域協議会もあった。今後は、地域、学校の意向を踏まえつつ、各地域協議会の自主性を尊重しながら、各地域の実情に応じて様々な手法により実施することとし、「地域未来塾」未実施校と連携した学習支援モデル事業の実施を通して、事業の更なる周知を図り、より多くの地域で実施できるよう取り組むとともに、既に実施している地域協議会への継続支援に取り組む。	
				生涯学習課	実績	4	5	7	9	12					
	30	○		学校を場とした地域の交流促進	学校・家庭・地域をつなぎ、地域コミュニティの活性化を図るため、学校施設を、地域住民が集い、子どもたちと交流し学び合う「場」として活用する。	地域住民が集う「場」を設置した学校数(校)	目標値	/	/	/	1	2	(コナ)	新型コロナウイルスの感染が拡大し、休校する学校があるだけでなく、PTA活動なども思うようにできない中、新たに学校施設に地域住民が集まり、交流することは困難であった。学校・家庭・地域がつながり、交流していく場や機会を創出していくことは重要であるが、今後のウィズコロナを踏まえた交流のあり方や、生涯学習センター・コミュニティセンターなど地域住民が交流できる既存施設との役割の整理などをしながら、今後の事業のあり方について検討していく。	
				生涯学習課	実績	-	/	/	/	0					
再(25)			「親学」の推進	保護者が集まる機会を捉えた親学に関する講話等の実施や、情報誌の発行などを通して、子育てに必要な知識や子どもとの関わり方などを伝える。	親学出前講座の実施回数(回)	目標値	130	135	140	145	150	(コナ)	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施件数は大幅に減少したままであるが、感染症対策を講じながら家庭教育支援団体や企業等と連携したプログラムの提供を継続することができた。今後は、引き続き感染症対策を講じながら事業を推進するとともに、より一層の家庭の教育力向上を図るため、年長児の保護者懇談会や就学時健康診断など、多くの保護者が集う機会の活用や、数年間実績のない小中学校への個別の働きかけなどに取り組む。		
			生涯学習課	実績	126	141	133	26	45						
再(14)			大人に対する人づくり啓発事業の実施	保護者が集まる機会や事業所等における出前講座、人づくりフォーラムの実施、企業等に対する宮っ子の誓いの普及啓発を行う。さらに、市全体で共有する人づくりの目標を策定し、普及啓発を行う。	人づくりフォーラムの来場者数	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	(コナ)	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、オンライン等を活用した人が集まらない手法で事業を実施(市HP上における職業紹介、人づくり講演動画の配信、パネル展示等)したが、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが懸念されることから、事業内容を検討する必要がある。今後は、オンライン等で実施した事業の成果を検証し、人づくり推進委員の意見を伺いながら、効果的な開催手法や事業内容を検討する。また、行動事例集や各種広報媒体を通して、コンクール受賞作品をマンガやイラスト等を活用して紹介するなど、積極的な50の言葉の周知・啓発を図る。		
			教育企画課	実績	6,000	7,000	7,000	0	0						
31			子育てサロンの推進	地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点を設置することにより、地域の子育て機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。	子育てサロンの登録者数(人)	目標値	7,600	8,000	8,320	8,650	9,000	(コナ)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が続き、休止や人数制限の対応をとったが、令和2年度から登録者は増加した。今後は、より多くの子育て家庭が気軽に来所し、遊びや交流ができ、子育て相談ができるよう、施設や遊びの紹介等を配信するなど、広く周知を行うとともに、地域における子育て家庭のニーズを踏まえ、感染症への適切な対策を講じながら子育て支援の充実を図る。		
			保育課	実績	6,444	7,053	6,254	2,881	3,836						

調査表

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性	
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3
基本目標Ⅲ	施策7	再(16)	○	○	NPO・大学・企業等と連携した学習の推進	企業等が持つ最新の技術や情報、ノウハウなどの教育力の活用を推進するとともに、企業等と地域や学習者などを結び付け、学習した成果を活用し活躍する場の拡大を図る。	企業等と連携した講座開催数(講座)	目標値	32	34	36	38	40	A 順調	講座の企画や実施にあたり、地域団体や大学、企業等の様々な組織と積極的に連携を図っており、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う講座の中止等により実績は若干減少したが、令和3年度には連携した講座数を増やし、目標値を上回る実績を継続している。 今後も、質の高い講座の提供とともに、学習を通して学校や企業、地域が関係を深めるきっかけづくりは重要であることから、連携による大学や企業等の持つノウハウを生かした講座や、学校や企業、地域が接する学習機会の提供に向けて緊密な連携を図っていく。
					生涯学習課	実績	30	44	47	39	46				
		32	○	○	学習成果を活用した講座等の推進	講座を開催したい市民に、生涯学習センター等の部屋を提供するなど、自分の学んだ成果を積極的に生かして活動したい学生や社会人、高齢者等を支援する仕組みづくりに取り組む。	生涯学習センター等で市民が実施した講座数(講座)	目標値	1	3	5	7	9	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、市民の自主講座開催を支援する「宮の学び人レクチャー」は令和3年度も開催を見合わせた。新型コロナウイルスの終息が見込めない中でも学んだ成果を活用する機会が得られるよう、短辺の動画作成を支援する「宮の学び人レクチャーオンライン」を試験的に実施した。 市民の活動の活性化や学習意欲のさらなる向上のため、学習成果を生かして活動する機会は重要であることから、オンラインも含めた「宮の学び人レクチャー」の効率的・効果的な実施方法を整理していくなど、市民の講座開催等を支援することで市民の学習成果の活用を促していく。
					生涯学習課	実績	-	0	18	0	4				
		33	○	○	社会教育関係団体との連携	地域における様々な教育活動を活性化するため、地域の社会教育活動の牽引役である社会教育関係団体との意見交換や共催事業の実施など緊密な連携を図る。	社会教育団体との連携事業数(事業)	目標値	8	9	9	10	10	(コナ)	社会教育関係団体との連絡・調整を図ってはいたものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、共催事業や意見交換会等は中止せざるを得なかった。 新型コロナウイルス感染症への懸念から各地域における単位組織の活動も思うようにできていないことから、共催事業などだけでなく、社会教育関係団体からの相談に広く応じるとともに、必要な助言などをしながら緊密な連携を図り、活動の活性化を促していく。
					生涯学習課	実績	8	8	7	1	1				
		再(6)	○	○	地域教育メッセの充実	市民活動団体や自主学習グループと市民が交流を通して活動紹介・情報交換をし、今後の活動の活性化や機会づくりの場とする。	人づくりフォーラムの来場者数(人)	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	(コナ)	令和3年度においても、開催目的の方向性が一致する「うつのみや人づくりフォーラム」との同時開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止とした。 今後は、市民活動団体や自主グループの活性化に向け、各地区の生涯学習センターで実施している文化祭の状況などを把握しながら、事業のあり方について検討していく。
					生涯学習課	実績	6,000	7,000	7,000	-	0				
34	○	○	人材バンクの充実	生涯学習情報システム(マナビス)に新たに家庭教育支援活動者や地域における学習支援活動を行う支援員などを登録し、地域人材マッチング機能を有する人材バンクの更なる充実を図る。	人材バンクの登録件数(件)	目標値	5,100	5,200	5,300	5,400	5,500	B 概ね順調	人材バンクの登録件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により思うように活動できない中、登録件数は微増に留まった。 今後は、学んだ成果を生かしたい人材を支援し、より効果的に様々な活動に結びつけられるよう、市の他の取組との連携や一体的な推進も検討しながら、事業の在り方について検証していく。		
			生涯学習課 みんなでまちづくり課	実績	5,081	5,166	5,437	4,633	4,721						
35	○	○	まちづくりセンター事業の実施	登録団体間の意見交換会やボランティア参加への後押しをする機会、各活動主体の自立化やまちづくり活動の活性化を図るための研修会の開催、多様な主体によるまちづくりシンポジウムの開催などを実施する。	まちづくりセンターの登録団体数(団体数)	目標値	280	285	290	295	300	B 概ね順調	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、登録団体数が減少している。 引き続き、感染症への対応が必要であることから、適切な対策を講じるとともに、市民協働のまちづくりの拠点施設として、まちづくりに関する相談、情報収集・発信、活動団体等の活動の活性化や活動場所の提供、連携体制の構築、ボランティア等の参加者の人材育成支援等、活動団体の運営に必要な支援や団体間の連携促進に取り組むことにより、NPOや企業等のまちづくりへの参加者を増やし、さらなる地域活力の維持・向上を図る。		
			みんなでまちづくり課	実績	276	254	252	238	213						
36	○	○	みやシニア活動センター事業の実施	豊富な知識や経験を持つシニア世代が一層活躍できるよう、相談窓口の開設や各種講座や交流会を企画実施するなど、第二の人生を健康でいきいきと暮らすことができるよう支援する。	みやシニア活動センター事業参加者延人数	目標値	8,200	9,200	10,500	11,250	12,150	B 概ね順調	令和3年度は、コロナ禍に伴う講座の定員抑制により、事業参加者人数は令和2年度から微増であった。 令和4年度は事業の大きな変更はせず、高齢者の社会参加の機会につながる関係機関との連携を引き続き図っていく。また、令和3年度から始まった栃木県シニアサポーターの取り組みと引き続き協働して、多様化する高齢者のニーズに応じたライフスタイルづくりを総合的に支援していく。		
			高齢福祉課	実績	7,258	7,990	8,927	9,354	10,136						
37	○	○	地域スポーツクラブの育成支援	地域住民が主体的に運営し、市民の健康づくりや生きがいづくりに寄与する地域スポーツクラブの設立・運営を支援する。	地域スポーツクラブがカバーする地域数	目標値	10	14	20	25	30	(コナ)	地域スポーツクラブの設立にあたっては、発起人会・設立準備委員会の設置など、地域内の合意形成が必要不可欠であることから、スポーツ推進委員や地区団体をはじめ、まちづくり協議会や連合自治会への働きかけを行っている。現在、設立に向け準備を進めている団体が複数あり、クラブ数の増加が見込めるところであったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での会議等が開催できず、設立に至らなかった。 今後は、状況の変化に柔軟に対応しながら、子どもからお年寄りまで幅広い世代が身近な場所で気軽にスポーツに親しむことができるよう、地域に根差したスポーツクラブの設立・運営を支援していく。		
			スポーツ振興課	実績	10	10	10	10	10						
施策8	再(23)	○	○	家庭教育支援活動者の育成	きめ細かな支援を行うため、家庭教育サポーターと親学習プログラム指導者を統合し、地域における家庭教育支援の活動者として育成する。	家庭教育支援活動者数(人)	目標値	25	25	30	40	50	(コナ)	定期的な研修会を開催し、家庭教育支援活動者の育成に取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、新規の登録者がいないことや、既存の登録者も都合により活動を休止する人などがあることにより、活動者数が減少してきている。 そのため、新規登録につながる人材を確保する必要があることから、引き続き、親学出前講座や情報誌等を活用した家庭教育支援活動者の周知や募集などを行い、新規登録者の確保に努めるとともに、研修会の開催により活動者の養成を図る。	
				生涯学習課	実績	-	27	29	28	25					
	38	○	○	子どもの体験活動指導者の育成	身近な地域で、子どもと関わる地域活動の実践者等を体験活動に関する知識や技術の習得に資する研修等を通して、子どもの体験活動指導者として育成する。	講座「子どもたちに伝えたい体験活動」の受講者数(人)	目標値	13	20	20	20	20	B 概ね順調	青少年指導員等を対象に体験活動に関する知識や技術の習得に資する講座を開催したことにより、子どもと関わる地域活動における体験活動指導者の育成が図られた。 今後は、地域教育を推進する人材を育成するため、既に子どもと関わる活動に取り組む実践者などへ講座の開催を周知しながら、引き続き、体験活動に関する知識や実践的な指導法などを習得できる講座を開催する。	
				生涯学習課	実績	11	14	15	16	16					
	39	○	○	社会教育主事の養成・活躍促進	市民の学習活動の推進や、学校・家庭・地域の連携促進のため、大学と連携した養成事業を実施するとともに、各生涯学習センター等における地域との連携窓口として中心的な役割を担うなど、活用促進を図る。	生涯学習センターに配置されている社会教育主事の有資格者数(人)	目標値	18	18	18	18	18	A 順調	社会教育主事については、宇都宮大学で開催される講習に職員を派遣し養成してきており、目標とする人数に達しているが、配置については1つのセンターに複数名配置されているなど偏りがある。 今後は、地域における社会教育の中心となる人材として、全ての生涯学習センターに配置できるよう社会教育主事の養成に取り組んでいくとともに、市民まちづくり部とも連携しながら、現在配置されている社会教育主事が地域のまちづくり・人づくりの様々な場面で活躍していけるよう促していく。	
				生涯学習課	実績	17	18	20	18	18					
	40	○	○	講座企画・運営ボランティアスタッフの育成	各生涯学習センター等において、地域の実態を踏まえた講座を実施するため、講座の企画立案から、広報・実施までを行う人材を育成する。	講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了者数(人)	目標値	6	6	6	6	6	A 順調	令和3年度は、有識者や先輩Vスタッフ等を講師として専門的な知識や技術を学ぶ機会を提供し、市民目線による講座の企画立案、運営を担う人材を育成することができた。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実習である講座(かがやき塾)の運営は令和4年度の実施とした。 今後は、生涯学習の推進役となる人材を養成するため、特に令和2年度、令和3年度に養成講座を修了したVスタッフのフォローアップを行うとともに、生涯学習センター等の主催講座での活動の機会を拡大する。	
				生涯学習課	実績	4	4	5	6	7					
再(26)	○	○	魅力ある学校づくり地域協議会活動の充実	地域の実情に応じて「魅力ある学校づくり地域協議会」が活動を円滑に実施するとともに、学校運営への参画機能の強化を図るため、コーディネーターの育成や「魅力ある学校づくり地域協議会」の組織強化に取り組む。	魅力ある学校づくり地域協議会による学校教育支援活動数(回)	目標値	945	955	965	975	985	(コナ)	令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、各協議会の活動は大幅に縮小したままであるが、実施手法などの工夫により地域の教育力を生かした協議会活動を行うことができた。 今後は、地域の教育力を生かした「学校教育の充実」と地域ぐるみでの子育てによる「家庭・地域の教育力向上」を図るため、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「魅力ある学校づくり地域協議会」活動を支援する。		
			生涯学習課	実績	929	912	1,044	564	623						

調査表

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性		
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3	R4
基本目標Ⅲ	施策9	41	○		地域学講座の充実	地域づくりの取組を促進するきっかけとするため、全ての市民が地域課題や魅力を発見・共有するとともに、郷土愛や住民意識を醸成する「地域学」講座を実施する。	地域学講座の受講者数(人)	目標値		720	740	760	780	800	A 順調	生涯学習センターで行う子どもから大人までを対象とした様々な講座において、地域の名所や文化等を知る、見る、体験する機会などを創出し、改めて自分の住む地域に目を向け、興味を持ち、考えるきっかけづくりに積極的に取り組んでいることで受講者数は増加傾向にあり、単年度目標値を上回る実績値を維持している。 実施にあたっては、地域への興味や関心を促すだけでなく、受講者が地域の課題に気づき、課題解決に向けた主体的な学習・活動へ結び付くことが必要であることから、今後も多様な講座で地域理解に資する内容を取り入れ、興味・関心を促していくとともに、自分の住む地域の魅力や課題を深く学べる講座も提供するなど、地域を支える人材の育成ができるよう取り組んでいく。
					生涯学習課 みんなであちづくり課			実績	700	825	775	790	848			
		42	○		外国人住民に向けた地域理解促進	外国人住民を対象とした、日本語や日本の生活習慣などの学習や、地域の人たちとの交流等により、外国人住民の地域理解を促し、社会参加につなげる取組を推進する。	外国人住民を対象とした地域理解講座の実施回数(回)	目標値		/	1	1	1	2	A 順調	令和3年度においては、外国人住民のみを対象とするのではなく、外国人との交流を望む日本人の受講者も受け入れたことで、参加者の活発な交流を促すことができた。 外国人住民の地域理解促進に向けては、地域のことについてただ学ぶだけでなく、外国人同士、あるいは外国人と日本人など、人と人とのつながりをつくっていくことが重要であることから、今後も外国人が学びを通して多様な人とつながり、そのつながりを通して地域への興味や関心を持ち、主体的に地域を理解しようとする気持ちを育むことができるよう取り組んでいく。
					生涯学習課 国際交流プラザ			実績	-	/	0	1	1			
		43	○		歴史文化資源周知啓発事業の推進	「宇都宮市歴史文化基本構想」で導き出した本市の歴史文化の特徴を語る「宇都宮の歴史を紐解く8ストーリー」の普及啓発や出前講座をはじめ、「文化財めぐり」「文化財展示施設における企画展」などの事業に取り組む。	歴史文化資源の保存活用・周知啓発事業の延べ参加人数	目標値		32,608	33,129	33,659	34,197	34,744	(コナ)	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して開催方法を検討し、密の回避や実施規模の縮小などの対策を講じて実施したことにより、来場者数は令和2年度に引き続き減少した。 今後も感染防止対策を図りながら、引き続き市民のニーズに合った事業内容を検討していくとともに、SNSを活用するなど本市の歴史や文化への興味関心を高める情報の発信に取り組む。
					文化課			実績	32,095	33,954	34,444	20,481	19,198			
		44			地域かがやきプロジェクト事業による地域課題解決学習の推進	地域学などとの連携を図りながら、「学習」と「活動」の循環を意識した地域の個別課題解決に向けた学習や各種地域団体の連携した学習を各生涯学習センター等において推進する。	地域かがやきプロジェクト活用事業数(事業)	目標値		19	20	22	24	26	(コナ)	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、予定していた事業でも中止とせざるを得ないものはあったが、まちづくり協議会などの地域団体と連携して地域について考える講座や、情報機器が使えない人へのスマホ講座など、地域の活性化や地域課題の解決に資する講座に取り組んだ。 今後も、多様な地域団体と連携しながら、地域課題の解決に向けた事業を実施していく必要があることから、引き続き地域団体との連携を積極的に図るとともに、コロナ禍における実施手法を検討し、地域住民が自らの地域について考える意欲を高めていけるよう取り組んでいく。
生涯学習課	実績				18			13	19	7	12					
45			成人式における地域交流事業の推進	新成人を、地域を上げて祝い励ますとともに、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことへの感謝の気持ちを持てるようにするため、地域の特性を活かした教育的意義のある地域交流事業を実施する。	新成人アンケートにおける地域交流事業に対する好意的な回答の割合(%)	目標値		100	100	100	100	100	B 概ね順調	令和3年1月の成人式は新型コロナウイルスの影響により11月に延期したことから、令和3年度は令和3年11月と令和4年1月に実施した。実施にあたっては、入場口での検温とともに、マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保、開催時間の短縮など、感染症対策を徹底したことで大きなトラブルなく進めることができた。 今後は、令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げとなったが、本市では引き続き20歳を対象とし、名称を「二十歳を祝う成人のつどい」と変更して実施していくことから、引き続き、20歳の若者に対し、地域への感謝の気持ちや地域の一員としての自覚を育む意義ある事業となるよう、新型コロナウイルス感染症の状況も注視しながら事業の充実を図っていく。		
			生涯学習課			実績	85	88	88	-	86					
再(9)			図書館レファレンスサービスの利用促進	レファレンス事例のデータベースやバスファインダーを作成するとともに、テーマに沿った資料の選書・リスト作成を行いレファレンスサービスの利用促進を図る。	レファレンスに対する利用者満足度(%)	目標値		100	100	100	100	100	B 概ね順調	令和3年度は、市民や地域が抱える課題解決と市民の調査研究活動を支援するため、レファレンス事例集の整理を進めたほか、国立国会図書館が実施するレファレンス共同データベースで事例の公開を行った。 今後は、レファレンスサービスの満足度とともに、サービスの認知度をより高めていく必要があることから、引き続きレファレンス事例集の整理と一般公開を進めるとともに、著作権法の改正に伴う公衆送信に関する措置の動向を注視しながら、WEBを活用したレファレンスサービスの実施を検討するなど、サービスの充実や認知度の向上を図る。		
			中央図書館			実績	-	98	97	93	95					
46			うつのみや伝統(ふるさと)文化継承事業の推進	宇都宮伝統文化連絡協議会と連携しながら、「ふるさと料理教室」「民話の集い」「伝統文化講座」「宮の祭り見学会」などの事業に取り組む。	伝統文化の普及啓発事業の延べ参加人数	目標値		520	530	540	550	560	(コナ)	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、開催時期および開催方法の検討を行い、密の回避や規模縮小などの対策を講じた中で、民話の集い、伝統食講座を実施した。 令和4年度も引き続き感染症への対応が必要であることから、適切な対策を講じながら事業を検討するとともに、伝統文化連絡協議会と連携し、講座の内容や開催時期など実施方法について検討していく。		
			文化課			実績	510	520	512	32	264					

「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の各事業の評価一覧

参考3

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性		
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3	R4
基本目標Ⅰ	施策1	1	○	○	「よるとしよ」事業の実施	日ごろ、読書や図書館を利用する機会が少ない20代から30代の読書活動を推進するため、閉館後の夜の図書館を活用し、若い世代が参加しやすい事業を実施する。	参加者数(人)	目標値		10	20	30	40	50	A 順調	興味を持たれるようなテーマを設定し、目標数を超えた参加者数があった。夜の図書館という非日常の空間で様々なテーマで実施することにより、参加者の満足度は高く、来館者層の拡大には一定の効果があった。今後も広報やテーマ設定等に工夫をしながら、引き続き継続していく。
					東図書館	実績		12	24	0	50					
		2	○	○	転入者向け図書館PR事業の実施	本市への転入者に向けて図書館のPRを図るため、図書館の案内や利用方法のほか、宇都宮での暮らしに役立つ情報を探すためのパスファインダーを作成し、配布・公開する。	転入者向けパスファインダー等作成・公開累計数(件)	目標値		3	6	9	12	15	B 概ね順調	
					全図書館	実績		3	6	9	11					
	3	○	○	読書活動の啓発事業の実施	「宮っこフェスタ」などのイベントに参加し、特に、来館したことのない市民等への図書館のPR事業を展開するほか、OPAC(利用者用端末)を読書活動の啓発に関する掲示板としても活用する。	情報発信回数(回)	目標値		2	4	6	8	10	(コロナ) 順調でない		
				全図書館	実績		2	11	8	4	5					
	4	○	○	センター図書室等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供	地域性や利用者層を考慮したきめ細やかなサービスを提供する。また、各センター等の開催事業のテーマに合わせた図書室の展示等を行い、センター等と連携した相乗効果による利用促進を図る。	センター等の関連事業における資料の提供回数(回)	目標値		45	60	75	90	105	B 概ね順調	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により講座連携での資料提供数は減少したが、定期的な特集コーナーの設置に努めるとともに、センター図書室資料の入替を行った。今後も、生涯学習センター等との連携を図りながら、地域のニーズや利用者層に合ったサービスの把握に努め、資料の充実や図書室等での読書活動の啓発に努めていく。	
				中央、東、南図書館 生涯学習センター	実績		30	66	96	102	69					
	施策2	5	○	○	アウトリーチサービスの推進	来館が困難な高齢者や、読書機会の少ない子ども等が利用しやすい場所に出向き、資料の貸出、図書に関する情報提供、おはなし会等を実施する。	実施回数(回)	目標値		3	6	9	12	15		(コロナ) 順調でない
					全図書館	実績		5	5	2	3					
6	○	○	○	障がい者向けサービスの充実	図書館への来館が困難な障がい等を持つ方へ向けたサービスの充実を図る。また、点字図書等の作成に関わる奉仕員への研修会や、障がい児のための手話つきおはなし会、特別支援学校等への資料提供を実施する。	音訳・点訳資料の新規作成タイトル数(点)	目標値		93	102	112	123	135	B 概ね順調		
				中央図書館 南図書館	実績		85	82	92	114	100					
施策3	7	○	○	ICT技術を活用した読書活動の推進	自分のお気に入りの本や読んだ本の履歴が残る機能など、ICT技術を活用した情報提供を実施する。また、普及が進んでいる電子書籍の導入について検討を進める。	図書館ホームページアクセス数(件)	目標値		920,000	940,000	960,000	980,000	1,000,000	B 概ね順調	図書館ホームページのアクセス数は増加している。また、感染症の影響で非来館・非接触型サービスへの需要が高まっており、ホームページの充実や電子書籍導入などICTの利活用の重要性が増している。今後は、電子書籍の試行導入の検証後、本格導入の具体的な内容検討を進めるほか、令和5年度に予定しているシステム及び機器更新に合わせて、利用者の利便性を向上させる新機能の検討を進める。	
				全図書館	実績		900,000	731,570	716,581	728,666	733,806					
8	○	○	○	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開	地域の歴史を次世代に伝えるため、貴重な史料等をデジタル化し、保存していく。また、利用機会を拡大するため、データベースとしてインターネットでの公開を進める。	デジタル化した資料数(点)	目標値		288	316	344	372	400	B 概ね順調		
				中央図書館 文化課	実績		260	260	260	329	329					
施策4	9	○	○	読書意欲を高めるサービスの提供	時機に合わせた情報・資料の提供、関係機関の事業等と連動した読書活動を推進する企画展示等を実施し、市民の多様化するニーズに応じたサービスを提供する。	関係機関と連動した企画展示開催数(回)	目標値		42	47	50	53	56	B 概ね順調	あらゆる分野を網羅し、情報提供をする図書館本来の機能を発揮できる事業であるほか、多くの来館者がある図書館での展示はPR効果があり、関係課や関係機関にもメリットがあるため、今後も継続して実施していく。	
				全図書館	実績		37	20	21	23	44					
10	○	○	○	図書館施設の改修・機能向上事業の推進	すべての市民が安全・快適に図書館を利用できるようにするため、計画的な改修に努め、施設・設備の機能向上を図る。	図書館の読書環境に関する利用者満足度(%)	目標値		80	80	80	80	81	A 順調		
				全図書館	実績		79	82	84	86	86					

「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の各事業の評価一覧

参考3

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性		
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3	R4
									目標値	実績	目標値	実績			目標値	実績
基本目標Ⅱ	施策5	11	○	○	「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施	家庭での読書習慣を育むため、保護者のグループや育児サークルを対象に、家庭での読み聞かせの方法や絵本の紹介などの出前講座を実施する。	事業実施回数(回)	目標値	3	5	7	8	10	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったものもあったが、令和3年度は、幼稚園・保育園保護者やPTA等に認知度が高い「親学出前講座」としての申し込みが増えた。すべての子どもが読書を楽しむためには、読書習慣を育む家庭や幼稚園・保育園等の施設にも読書の重要性を認識してもらうことが必要であることから、引き続き、機会を捉えた周知を行いながら、事業を実施していく。	
					中央図書館 東図書館 南図書館	実績	2	5	5	0	3					
		12(再5)	○	○	アウトリーチサービスの推進【再掲】	来館が困難な高齢者や、読書機会の少ない子ども等が利用しやすい場所に出向き、資料の貸出、図書に関する情報提供、おはなし会等を実施する。	実施回数(回)	目標値	3	6	9	12	15	(コナ)順調でない		
					全図書館	実績	5	5	2	3						
	13	○	○	「うつのみやこども賞」事業の実施	子どもの読書活動を啓発するため、日本人の作者による新作児童文学作品を対象に、市内の小学5、6年生公募委員が、その年一番友だちに薦めたい本を選び、賞を授与する事業を実施する。	うつのみやこども賞選定委員の累計人数(人)	目標値	680	700	720	740	760	B概ね順調	選定委員となった児童も意欲的に活動している。また、選定委員を経験した生徒が本事業の運営ボランティアとして活動するなど、児童生徒が図書館に関わるきっかけの一つとなっている。今後も引き続き、事業を継続して実施していく。		
				中央図書館	実績	660	681	701	715	730						
	14	○	○	読書活動を支援するボランティアの育成・強化	図書館や学校等で活動する読み聞かせボランティアの人材の確保と育成に努める。また、要請に応じ、市民への出前講座を行う。	小学校読み聞かせボランティア研修会の実施回数(回)	目標値	2	2	3	3	3	A順調			
				全図書館 学校教育課	実績	2	2	2	3	3						
	施策6	15	○	○	はじめてえほん事業の実施	子どもが継続的に本に親しみきっかけづくりのため、乳幼児と保護者を対象として、生涯学習センター等でのおはなし会と読み聞かせの講座を実施する。	はじめてえほん事業の実施回数(回)	目標値	3	6	9	12	16	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら講座を開催し、家庭での読書活動のきっかけを提供することができた。また、本事業を開催することにより、実施会場である生涯学習センター図書室の周知や利用促進にも効果があつた。今後は、休止していた「はじめてえほん運営ボランティア」の活動内容の検討や研修会等による育成、事業の実施場所・回数等について精査しながら、引き続き事業の継続を図っていく。	
					中央図書館 東図書館 南図書館	実績	3	6	2	8						
		16	○	○	乳幼児やその保護者に対する読書活動支援の充実	図書館において本を通じてゆっくりと過ごせる時間「あかちゃんタイム」の実施や、親子で参加できる講座等を開催する。また、関係課と連携し集団検診時等にブックリストの配布を行う。	012歳おはなし会参加者数(人)	目標値	2,770	2,780	2,790	2,800	2,810	(コナ)順調でない		
	全図書館 子ども家庭課 生涯学習課	実績	2,759	2,207	2,053	18	154									
	17(再14)	○	○	読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	図書館や学校等で活動する読み聞かせボランティアの人材の確保と育成に努める。また、要請に応じ、市民への出前講座を行う。	小学校読み聞かせボランティア研修会の実施回数(回)	目標値	2	2	3	3	3	A順調	小学校の読み聞かせボランティアは、子どもの進級や卒業で毎年度人の入れ替わりがあることから、今後も継続的に育成していく必要がある。また、本の修理ボランティアの育成が課題となっており、今後取り組んでいく必要がある。また、図書館で活動するおはなしボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会を縮小せざるを得ない状況だが、勉強会の内容の工夫やおすすめ本の紹介などを通して、育成やモチベーション維持に努めている。一方で、高齢化や担い手不足が課題であり、新しい人材の確保策について検討していく必要がある。		
				全図書館 学校教育課	実績	2	2	2	3	3						
施策7	18	○	○	授業に役立つ資料・情報提供の充実	南図書館は、小中学校の要望に応じた資料を司書が選定して提供する。また、学校図書を選定し、学校巡回図書サービスを実施する。さらに新たな学校パックの作成や、授業に即したパスファインダーの作成などを行う。	学校希望図書利用件数(件)	目標値	1,650	1,700	1,740	1,770	1,800	B概ね順調		新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一時利用数が落ち込んだ。また、学校支援サービスに関するアンケートでは、GIGAスクールでのタブレットを活用した調べ学習が増えており、図書室利用自体が減少しているという回答もみられた。希望図書の利用頻度が学校によって偏りがあるため、学校図書館司書への情報提供を充実させることにより、利用増に努める。また、学校巡回図書に関しては、より利用しやすくするとともに学校図書館司書の負担軽減のため、提供方法について検討していく必要がある。	
				南図書館 学校教育課	実績	1,600	1,456	1,373	1,296	1,312						
	19	○	○	学校図書館司書業務嘱託員等の育成	学校の教育活動全体を通じ、学校図書館を計画的に運用しその機能の充実を図るため、学校内や地域学校園内が連携して研修会等を開催し、司書教諭及び学校図書館司書の育成と能力向上を図る。	地域学校園主催の研修開催数(回)	目標値	5.1	5.3	5.5	5.7	5.8	B概ね順調			
学校教育課 南図書館				実績	4.8	4.0	4.1	3.2	4.0							
20	○	○	学校図書館における読書活動の充実	児童生徒の主体的、意欲的な読書を充実させるため、全校一斉読書や読み聞かせ、ブックトーク等を実施する。また、学校図書館司書による図書を利用した授業支援を実施する。	学校図書館司書の授業参加回数(1か月あたり)	目標値	9.2	9.4	9.6	9.8	10.0	B概ね順調	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校図書館の利用や、図書の利用が制限され、学校図書館司書による授業参加も減少した。また、1人1台のタブレット端末活用により、図書による調べ学習の機会や学校図書館司書への授業参加依頼が減少したという意見もあった。今後は、情報活用能力の育成や、図書の活用とインターネットの活用における留意点の理解促進を図るため、学校図書館司書の授業参加を促していく。			
			学校教育課	実績	8.8	9.3	9.7	8.8	7.8							
施策8	21	○	○	中学生による読書推進事業	読書推進と図書館利用啓発のため、中学生を中心とした世代向けのブックリストの発行等、図書館ホームページを活用し、同世代からのおすすめ本情報を発信するなど、図書館利用のきっかけづくりに取り組む。	中学生によるおすすめ本の冊数	目標値	135	135	140	140	140		B概ね順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、宮っ子チャレンジ自体が取りやめになる年度もあったが、社会体験学習の場として図書館を希望する生徒は多く、その生徒たちにより継続的におすすめ本の紹介ができていく。今後は宮っ子チャレンジ等を通じ、読書離れが懸念される中学生が本や読書に触れるきっかけづくりに取り組んでいく。	
				全図書館	実績	132	132	126	0	125						
22	○	○	高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進	読書の重要性を発信するため、高校生のための読書情報誌を発行する。また、高校生の読書活動を活性化するため、高校生自身が運営に関わる事業を展開する。さらに県と連携し高校生の読書活動の推進に取り組む。	高校生対象の情報発信回数(回)	目標値	5	11	17	23	30	A順調				
			全図書館	実績	1	2	13	26	26							

「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の各事業の評価一覧

参考3

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性	
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3
基本目標Ⅲ	施策9	23			みや学講座の開催 全図書館	市民が郷土愛を育み、宇都宮について知識を深めるため、古文書や地域の資料などの図書館資源を活用して学べる「みや学講座」を開催する。	講座開催数(回)	目標値	2	4	6	8	10	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症の影響により開催数や受講者数は減少しているものの、図書館の地域資料等を活用しながら、話題性のあるテーマで宇都宮に関する講座を実施することができた。今後は、宮の魅力再発見事業と一体化し、宇都宮についての知識を深めるための図書館の資源を生かした講座の開催など、郷土愛の醸成と読書機会の提供に取り組んでいく。
		24(再8)			地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開【再掲】 中央図書館文化課	地域の歴史を次世代に伝えるため、貴重な史料等をデジタル化し、保存していく。また、利用機会を拡大するため、データベースとしてインターネットでの公開を進める。	デジタル化した資料数(点)	目標値	288	316	344	372	400	B概ね順調	令和3年度は、令和2年度にデジタル化した資料を整理し、公開可能な62タイトルを図書館ホームページに公開した。また、アーカイブ化する予定の貴重書を適切に保存するため、防虫処理を施すとともに、書庫の整理を行った。資料に個人情報に掲載されていないことなどを十分確認しながら、デジタル化する資料を選定し、貴重書情報を誰もが共有できるよう、計画的にデジタル化及びホームページでの公開に取り組んでいく。
		25			宮の魅力再発見事業の推進 中央図書館 東図書館 南図書館	「宮の魅力再発見コーナー（中央図書館）」や「うつのみやブランドコーナー（東図書館）」の充実を図る。また、関連資料のリストや、パスファインダーの作成、講座の開催などの事業を推進する。	宮の魅力再発見事業の実施回数	目標値	6	6	6	6	6	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、人数制限をするなど可能な範囲で事業を実施した。また、商工会議所やコンベンション協会など他機関が作成したパンフレットを収集・提供するコーナーの設置や地域の特産品の展示など、郷土愛の醸成を図るとともに、地域の産業や特産品などについて学ぶことにより、地域の企業支援にもつながる取り組みであることから、今後も継続して実施していく。
	施策10	26			行政支援サービスの推進 中央図書館	市職員が様々な情報を活用し、より良い行政サービスを遂行するため、求めに応じた資料・情報の調査・提供を行い、各部署が開催する研修や講座開催時には関連図書の出貸やブックリストの作成などを実施する。	行政支援サービス貸出冊数(冊)	目標値	1,760	1,820	1,880	1,940	2,000	B概ね順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、関係各課等主催の研修会・講座の中止やオンライン化の推進が図られたことから、関連資料の提供機会は減少しているが、関係各課等と連携しながら資料・情報の提供や調査業務を着実に実施した。今後は、社会状況の変化にあわせて行政支援サービスの提供方法について検討をすすめるとともに、サービスの周知強化を図り、様々な情報発信の拠点として市職員の職務遂行を支援することにより、市民サービス全般の向上を図る。
		27			科学・技術情報提供サービスの充実 東図書館	科学・技術の面白さを知り理解を深めるため、県内大学等と連携して子ども向けの講座等を実施する。また、関連資料を収集・提供するほか、関連機関と連携し、テーマに関する展示やブックリストの作成を行う。	講座参加者数(人)	目標値	1,150	1,180	1,210	1,240	1,270	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度から講座の中止や学生による出前講座の減少があったが、可能な範囲での講座や関係機関への情報提供を行った。今後も、高等学校、大学や関係機関と連携し、事業を継続していく。
		28			ビジネス支援サービスの充実 東図書館 産業政策課	本市における産業の創出と中小企業の活性化を図るため、関連機関等と連携し、ビジネスに関する資料の収集・提供やセミナーなどの事業を実施する。	ビジネス支援サービスの満足度(%)	目標値	93.0	94.0	95.0	96.0	97.0	B概ね順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、図書館の休館や利用者が来館を控えるなどの影響があったが、企画展示や連携講座のほか、関係機関への情報提供を行った。今後も、市民へのPRや関係機関との連携を強化し、引き続き事業の充実を図る。
		29			宇都宮アグリビジネスブランド化への支援 東図書館 農林生産流通課	本市の農産物やアグリビジネスについて市民にPRし関心を高めるため、関連資料のコーナーの充実を図る。また、地域ブランドの発掘・創造支援のため、関連機関との連携事業を実施するほか、新着図書情報を発信する。	アグリネットワークに提供した図書数(冊)	目標値	10	15	20	25	30	A順調	アグリネットワークの講座、交流会、メールマガジンへの資料提供を行うなど、アグリビジネス支援のため、農林生産流通課とも連携を強化している。今後もビジネス支援サービスの一環として、引き続き事業を継続する。
		30			宇都宮プロスポーツアーカイブ事業の推進 東図書館 都市魅力創造課	プロスポーツを活かしたまちづくりや地域活性化のため、宇都宮に活動拠点を置くプロスポーツチームの関連資料を収集・保存・提供し、連携事業を実施する。	関連資料所蔵タイトル数(冊)	目標値	280	300	320	340	750	B概ね順調	雑誌の休刊など、紙媒体資料の減少から、所蔵資料は微増となっている。資料の収集・保存が主な事業目的であることから、今後も、ビジネス支援サービスや宇都宮の魅力再発見事業の一環として図書、雑誌記事及びグッズ等のチーム関連資料の収集・保存や、展示などを通じた情報発信を継続する。
		31			子育て・家庭生活支援情報の充実 南図書館	子育てや家庭生活に関する情報を提供するため、市民ニーズに応じた資料の収集・提供を行うほか、関連講座を開催する。	関連資料冊数(冊)	目標値	25,300	26,500	27,700	28,800	30,000	B概ね順調	資料の充実に取り組むと同時に、ロングライフコーナー近くに大活字本を配置するなど、利用しやすい書棚づくりに取り組んだ。また、家庭生活に係る講座を、子育て世代、シニア世代、現役世代を対象に開催し、一定の参加者を得ている。今後は、更なる講座の充実について検討するとともに、全館で取り組んでいる生活応援サービスと一体化し、事業の充実を図っていく。
施策11	32			生活応援サービスの充実 全図書館	市民が抱える課題解決への一助となるため、高齢者の暮らしや、医療・健康に関することなど、市民の利便性やニーズに応じた資料コーナーの充実を図るほか、関連事業を展開する。	生活応援講座参加人数(人)	目標値	380	390	400	410	420	(コナ)順調でない	新型コロナウイルス感染症対策のため、講座の開催回数の減少及び、人数制限せざるを得なかった。また、シニア向けの講座は人気が高いが、子育て講座など、若い世代向けの講座の参加人数の増が課題となっている。今後は、事業のターゲットとなる世代が参加しやすい開催方法や周知方法等を工夫しながら、事業を継続していく。	
	33			レファレンスサービスの充実 全図書館	市民の主体的な学習活動や課題解決に役立つ資料・情報を提供するため、レファレンス事例のデータベース化等を進める。また、司書の能力向上に努め、サービスの充実を図る。	レファレンス相談件数(件)	目標値	46,300	46,400	46,500	46,700	46,800	B概ね順調	令和3年度は、市民や地域が抱える課題解決と市民の調査研究活動を支援するため、レファレンス事例集の整理を進めたほか、国立国会図書館が実施するレファレンス協同データベースで事例の公開を行った。市民からの認知度を高めサービスの利用促進を図るため、引き続きレファレンス事例集の整理と一般公開を進めるとともに、著作権法の改正に伴う公衆送信に関する措置の動向を注視しながら、WEBを活用したレファレンスサービスの実施を検討していく。	

「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の各事業の評価一覧

参考3

基本目標	施策	番号	重点	新規	事業名 担当課	事業の内容	活動指標名と目標値及び実績						事業の進捗	事業の評価と今後の方向性	
							活動指標名	年度	H29	H30	R1	R2			R3
基本目標IV	施策12	34	○		世代を超えた交流の場の創出	地域の学校・企業・団体・ボランティア等と連携し、「南としょかん祭」「かわち図書館まつり」を開催する。また、学生等が講師となり、図書館資源を活用した子ども向け講座等を開催する。	講座・イベントの開催数(回)	目標値	19	20	21	22	23	A 順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、まつりなどの大規模イベントは中止や規模を縮小せざるを得なかったが、市民や学生等が講師や運営を担う講座を一部開催し、世代間交流ができる機会の創出を図った。社会情勢を踏まえ、小規模であっても、図書館を場とした人と人の交流機会の創出を継続していく。
					全図書館	実績	18	13	14	6	22				
	35			本を通じて語り合える事業の充実	人と人が読書の楽しさを共有する場を創出するため、特定のテーマについて参加者同士が気軽に語り合えるカフェトークや、おすすめ本の紹介をしあうビブリアバトル、音読教室等を実施する。	カフェトーク・読書会等参加者数(人)	目標値	470	490	510	530	550	(コロナ) 順調でない	新型コロナウイルス感染症拡大による、ライフスタイルの変化などを鑑み、オンライン等も活用しながら本や読書を通じた市民同士の交流の場の創出を図っていく。	
				全図書館	実績	471	311	314	168	317					
	施策13	36 (再14)			読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	図書館や学校等で活動する読み聞かせボランティアの人材の確保と育成に努める。また、要請に応じ、市民への出前講座を行う。	小学校読み聞かせボランティア研修会の実施回数(回)	目標値	2	2	3	3	3	A 順調	小学校の読み聞かせボランティアは、子どもの進級や卒業で毎年度人の入れ替わりがあることから、今後も継続的に育成していく必要がある。また、本の修理ボランティアの育成が課題となっており、今後取り組んでいく必要がある。また、図書館で活動するおはなしボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会を縮小せざるを得ない状況だが、勉強会の内容の工夫やおすすめ本の紹介などを通して、育成やモチベーション維持に努めている。一方で、高齢化や担い手不足が課題であり、新しい人材の確保策について検討していく必要がある。
					全図書館 学校教育課	実績	2	2	2	3	3				
37				読書関係ボランティアの交流の推進	読書活動や図書館に関わるボランティアの確保や活動の充実等を図るため、ボランティア同士の意見交換や交流を通して、図書館とボランティアの結びつきを強化し、サービスの向上を目指す。	ボランティア同士の交流会開催数(回)	目標値	12	12	12	12	12	(コロナ) 順調でない	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ボランティアの活動場所の提供機会が少なくなっているものの、定例的な勉強会を継続し、各館のボランティア間の意見交換や交流は深まってきている。一方、全館ボランティアが一同に会し、交流する機会を設けることが難しい状況にあり、今後は、ボランティア同士の交流に加え、ウィズコロナ時代におけるボランティアと図書館のより効果的な交流機会の場を検討する必要がある。	
				全図書館	実績	12	11	11	6	8					

令和4年度 社会教育委員の会議の予定について

社会教育委員の会議(全3回)		計画の中間見直し
8月	【第1回目会議】 ・議事 後期計画策定の方向性について	意見を踏まえ、 後期計画の骨子(案)の作成
9月		
10月	(10月下旬～11月上旬頃予定)	後期計画(素案)の作成
11月	【第2回目会議】 ・議事(予定) ①後期計画(素案)について ②令和5年度社会教育団体に対する補助について	
12月		【パブリックコメント】の実施 ・広く市民から御意見をいただく
1月		後期計画(案)の作成
2月		後期計画の庁内合意
3月	(下旬頃予定) 【第3回目会議】 ・議事(予定) ①後期計画策定の報告 ②令和5年度社会教育行政の基本方針及び重点施策について ③令和5年度文化行政の基本方針及び重点施策について	後期計画の公表